

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
1		基礎理化学	開講時期	1年前期	倉橋 智		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、前半は理学療法を学ぶ上で必要な理科系知識を振り返る。後半は理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、それをどのように用いて人体の運動を理解するのかを手順に従って学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 配布資料による		
教育目標該当項目: ②					キーワード ①生物 ②化学 ③物理学 ④数学 ⑤バイオメカニクス		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	導入	これから学ぶ内容についての概要①		倉橋		
第2回	2	導入	これから学ぶ内容についての概要②		倉橋		
第3回	2	基礎科目の準備	医療職としての基礎的な学びに向けた準備①		倉橋		
第4回	2	基礎科目の準備	医療職としての基礎的な学びに向けた準備②		倉橋		
第5回	2	基礎科目の準備	理解へのつなげ方 手順		倉橋		
第6回	2	基礎科目の準備	理解へのつなげ方 手順		倉橋		
第7回	2	総括	学校生活における取り組み姿勢と自覚		倉橋		
第8回	2	人体の基礎的な構造・機能	icebreak、大きさ、単位		倉橋		
第9回	2	人体の基礎的な構造・機能	てこ、質量、重心、計算		倉橋		
第10回	2	人体の基礎的な構造・機能	細胞、機能、名称		倉橋		
第11回	2	人体の基礎的な構造・機能	部位、名称、専門用語		倉橋		
第12回	2	人体の基礎的な構造・機能	部位、名称、専門用語		倉橋		
第13回	2	人体の基礎的な構造・機能	各部位のつながり、内臓器のつながり		倉橋		
第14回	2	人体の基礎的な構造・機能	骨格系と連結		倉橋		
第15回	2	総括	今まで学んだ内容を臨床的に活用する		倉橋		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	
2		医療概論	開講時期	1年通年	鈴木 恒範/山下 茂	
			授業時間	60		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位
科目概要・目的 ○医療倫理と生命倫理の基本原則について、歴史的社会的及び哲学的な側面から概説する。医療倫理と生命倫理をさまざまなトピックに即して考察する。特に先端医療をめぐる倫理的諸問題について取り扱う。医療と社会のかかわりについて考える。 教育目標該当項目： ①④					講義 教科書(著者/書名/発行所) 霜田求他/シリーズ人間論の21世紀課題③医療と生命/ナカニシヤ キーワード 医療倫理、生命倫理、予防医療	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	医療倫理と生命倫理	医療と生命の倫理的問題へのアプローチ(1)		鈴木	
第2回	2	医療倫理と生命倫理	医療と生命の倫理的問題へのアプローチ(2)		鈴木	
第3回	2	医療倫理と生命倫理	生命の質と価値をめぐる倫理		鈴木	
第4回	2	医療倫理と生命倫理	医療におけるコミュニケーション		鈴木	
第5回	2	医療倫理と生命倫理	生命の始まりをめぐる倫理		鈴木	
第6回	2	医療倫理と生命倫理	安楽死・尊厳死		鈴木	
第7回	2	医療倫理と生命倫理	臓器移植		鈴木	
第8回	2	医療倫理と生命倫理	遺伝子と治療		鈴木	
第9回	2	医療倫理と生命倫理	クローン技術の応用をめぐる倫理的問題		鈴木	
第10回	2	医療倫理と生命倫理	テクノロジーと人間改造		鈴木	
第11回	2	医療倫理と生命倫理	医学研究の倫理		鈴木	
第12回	2	医療倫理と生命倫理	医療事故		鈴木	
第13回	2	医療倫理と生命倫理	健康と病気		鈴木	
第14回	2	医療倫理と生命倫理	医療と文化		鈴木	
第15回	2	医療倫理と生命倫理	確認テスト		鈴木	
第16回	2	生化学・栄養学	なぜ生化学・栄養学を学ぶのか？		山下	
第17回	2	生化学・栄養学	元素・原子・分子、化学結合		山下	
第18回	2	生化学・栄養学	酸化と還元、同化と異化		山下	
第19回	2	生化学・栄養学	タンパク質の分類と機能		山下	
第20回	2	生化学・栄養学	アミノ酸の分類と機能		山下	
第21回	2	生化学・栄養学	酵素の分類と作用機構		山下	
第22回	2	生化学・栄養学	ホルモンの分類と作用機序		山下	
第23回	2	生化学・栄養学	糖質の分類と代謝		山下	
第24回	2	生化学・栄養学	脂質の分類と代謝		山下	
第25回	2	生化学・栄養学	ビタミンの種類と機能		山下	
第26回	2	生化学・栄養学	脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン		山下	
第27回	2	生化学・栄養学	消化器官、消化過程、吸収器官		山下	
第28回	2	生化学・栄養学	栄養素の吸収過程、エネルギーとは		山下	
第29回	2	生化学・栄養学	エネルギーの産生と消費、活動代謝		山下	
第30回	2	生化学・栄養学	総括と試験		山下	
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
3		コミュニケーション論	開講時期	1年前期	本持 英児		
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設4年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身に付ける演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。					教科書(著者/書名/発行所) 配布資料にて行う。 参考図書:山口美和 PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版 医学書院		
教育目標該当項目: ①③⑤					キーワード コミュニケーション・対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報、情報管理・プロフェッショナリズム		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	コミュニケーションとは	接遇の5原則について理解する		本持		
第2回	2	自分を理解する	自分の性格・態度・傾向を知る		本持		
第3回	2	コミュニケーション力①	みる力を養う演習		本持		
第4回	2	コミュニケーション力②	きく力を養う演習		本持		
第5回	2	コミュニケーション力③	伝える力を養う演習 (ノンバーバルコミュニケーション)		本持		
第6回	2	自立と自律	自己管理・自己実現		本持		
第7回	2	社会人としてのマナー①	挨拶の演習		本持		
第8回	2	社会人としてのマナー②	電話の掛け方演習		本持		
第9回	2	社会人としてのマナー③	手紙の書き方演習		本持		
第10回	2	社会人としてのマナー④	報告・連絡・相談の重要性を理解する		本持		
第11回	2	医療面接①	医療面接演習(基本的注意事項)		本持		
第12回	2	医療面接②	医療面接演習(患者・家族との対話)		本持		
第13回	2	医療面接③	医療面接演習(他職種との対話)		本持		
第14回	2	ボランティアとは	ボランティアについて理解する		本持		
第15回	2	まとめ			本持		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
4		心理学	開講時期	1年前期	井古田 大介		
			授業時間	30			
			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的					単位数	2 単位	講義
臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かした授業を行う。演習形式を取り入れながら、幅広く学び、科学としての心理学の持つ方法論、研究内容、日常生活への応用などについて理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ②					齋藤勇/イラストレート心理学入門/誠心書房		
					キーワード		
					認知、感情、欲求、学習、記憶、発達、社会		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	認知心理学①	知覚と認知の心理を理解する		井古田		
第2回	2	認知心理学②	知覚と認知の心理を理解する		井古田		
第3回	2	感情心理学①	感情と情緒の心理を理解する		井古田		
第4回	2	感情心理学②	感情と情緒の心理を理解する		井古田		
第5回	2	欲求心理学①	欲求と動機の心理を理解する		井古田		
第6回	2	欲求心理学②	欲求と動機の心理を理解する		井古田		
第7回	2	学習心理学①	学習の心理を理解する		井古田		
第8回	2	学習心理学②	学習の心理を理解する		井古田		
第9回	2	記憶心理学①	記憶の心理を理解する		井古田		
第10回	2	記憶心理学②	記憶の心理を理解する		井古田		
第11回	2	発達心理学①	発達と成長の心理を理解する		井古田		
第12回	2	発達心理学②	発達と成長の心理を理解する		井古田		
第13回	2	社会心理学①	社会と組織の心理を理解する		井古田		
第14回	2	社会心理学②	社会と組織の心理を理解する		井古田		
第15回	2	まとめ	総括(テスト)を行う。		井古田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
5		人間発達学	開講時期	1年前期	増田 岳彦		
			授業時間	15			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、子どもの発達を通し、運動獲得の過程を学び動作獲得のための運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。運動獲得と心身の成長について学び関わり方について説明できるようになる。					教科書(著者/書名/発行所) 上杉雅之 監修『イラストでわかる人間発達学』医歯薬出版		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 運動発達、原子反射、姿勢反射		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	発達の概念理論 運動発達0-3	発達の言葉の定義と理論について説明できる。 生後0から3ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		増田		
第2回	2	運動発達4-9	生後4から9ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		増田		
第3回	2	運動発達10-24	生後10か月以上の運動発達の特徴を説明できる。		増田		
第4回	2	運動発達まとめ 歩行の発達	運動発達の要素について説明できる。 乳児の歩行・寝返りなどの要素について説明できる。		増田		
第5回	2	姿勢・反射・反応発達検査	原始反射・姿勢反射について姿勢獲得の時期と関連付けて説明できる。		増田		
第6回	2	身体の発達上肢機能の発達 ADLの発達	身体的な変化と姿勢・動作獲得が関連づけて説明できる。 上肢機能の発達について運動発達と関連付けて説明できる。		増田		
第7回	2	感覚・知覚・認知・社会性の発達 青年成人期の発達	様々な発達の側面が説明できる。 乳児期以降の発達について説明できる。		増田		
第8回	2	総括	総復習と臨床応用		増田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
6		情報統計論 I	開講時期	1年前期	大和田 和彦		
			授業時間	15			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文を検索できる。					教科書(著者/書名/発行所) テキストはありませんが、Microsoft Word, Excel, PowerPoint全てがインストールされたパソコンを用意してください		
教育目標該当項目: ②③⑤					キーワード 理学療法と研究		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	パソコンの基本操作	基本的なパソコンの操作方法を学ぶ		大和田		
第2回	2	パソコンの基本操作	基本的なパソコンの操作方法を学ぶ		大和田		
第3回	2	パソコンの基本操作	基本的なパソコンの操作方法を学ぶ		大和田		
第4回	2	Word	基本的な書類作成ができる		大和田		
第5回	2	PowerPoint	基本的なプレゼンテーション資料が作成できる		大和田		
第6回	2	Word	基本的な書類作成ができる		大和田		
第7回	2	レポート作成			大和田		
第8回	2	文献検索・理学療法と研究	EBM、EBPTについて		大和田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

令和4年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者
7		情報統計論Ⅱ	開講時期	1年後期	大和田 和彦／増田 岳彦 ／板子 伸子
			授業時間	30	
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
科目概要・目的					単位数 1 単位 演習
理学療法士としてそれぞれ10年以上の実務経験を活かした授業で、理学療法実践者として臨床に活かす統計学について解説する。大量のデータの中に存在する法則性を見出し、それらを解釈し意思決定に役立てることができるために、必要な基本を学ぶ。 教育目標該当項目： ③					教科書(著者/書名/発行所)
					比江島欣慎／全部絵で見る医療統計／羊土社
					キーワード
					順列、特性値、標準偏差、正規分布、標本
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	医療統計	算数と数学の確認(割合、計算力、単位換算など)		大和田
第2回	2	医療統計	算数と数学の確認(割合、計算力、単位換算など)		大和田
第3回	2	医療統計	算数と数学の確認(割合、計算力、単位換算など)		大和田
第4回	2	医療統計	算数と数学の確認(割合、計算力、単位換算など)		大和田
第5回	2	医療統計	算数と数学の確認(割合、計算力、単位換算など)		大和田
第6回	2	医療統計	研究法(研究デザイン、研究の構成とルール)		板子
第7回	2	医療統計	研究法(研究デザイン、研究の構成とルール)		板子
第8回	2	医療統計	研究法(研究デザイン、研究の構成とルール)		板子
第9回	2	医療統計	研究法(研究デザイン、研究の構成とルール)		板子
第10回	2	医療統計	研究法(研究デザイン、研究の構成とルール)		板子
第11回	2	医療統計	統計手法(オッズ・検定・相関関係)		増田
第12回	2	医療統計	統計手法(オッズ・検定・相関関係)		増田
第13回	2	医療統計	統計手法(オッズ・検定・相関関係)		増田
第14回	2	医療統計	統計手法(オッズ・検定・相関関係)		増田
第15回	2	医療統計	統計手法(オッズ・検定・相関関係)		増田
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	市川 真莉那	
8		基礎運動学 I	開講時期	1年前期			
			授業時間	30			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1単位	演習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士の臨床における評価・治療の土台となる運動器の学問である。理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かし、以下の授業を行う。 ・骨、筋肉、靭帯、その他の軟部組織からなる関節構成体の動きの仕組みについて基礎から学ぶ。 ・上肢・下肢・体幹の関節運動の仕組み、および、筋活動と運動や姿勢との関連について知識を深める。 ・小テストを複数回実施し、知識の確認を行う。					中村隆一編著「基礎運動学 第6版補訂」医歯薬出版		
教育目標該当項目： ②③					キーワード		
					関節、機能解剖、筋活動		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	運動学の基礎	基本肢位、運動面、運動軸		市川		
第2回	2	運動学各論①	関節の構造、形状		市川		
第3回	2	運動学各論②	短縮と強縮、筋収縮の様態、メカニズム		市川		
第4回	2	運動学各論③	運動単位		市川		
第5回	2	運動学各論④	筋繊維の種類		市川		
第6回	2	運動学各論⑤	力学・長さ張力曲線・速さ力曲線		市川		
第7回	2	運動学各論⑥	肩関節		市川		
第8回	2	運動学各論⑦	肘関節・手関節		市川		
第9回	2	運動学各論⑧	頸椎		市川		
第10回	2	運動学各論⑨	胸椎・腰椎		市川		
第11回	2	運動学各論⑩	股関節		市川		
第12回	2	運動学各論⑪	膝関節		市川		
第13回	2	運動学各論⑫	足関節・足部		市川		
第14回	2	運動学各論⑬	顎関節・顔面		市川		
第15回	2	総括 まとめ	総括 まとめ		市川		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	市川 真莉那
9		基礎運動学Ⅱ	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1単位
科目概要・目的					演習	
理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かした授業で、身体の運動、動作をそれを生じる力やトルクの視点で説明する力学の一分野である身体運動学(キネシオロジー)や各関節の運動学を通して、内力外力、モーメント、支持基底面等について学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目: ②③⑤					市橋則明/運動療法学 障害アプローチの理論と実際/文光堂	
					キーワード	
					身体運動学・関節運動学・機能解剖学	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	運動学の基礎	関節モーメントと筋活動		市川	
第2回	2	運動学の基礎	関節モーメントと筋活動		市川	
第3回	2	運動学の基礎	重心、支持基底面		市川	
第4回	2	運動学の基礎	重心、支持基底面		市川	
第5回	2	関節運動学	関節運動学		市川	
第6回	2	関節運動学	関節運動学		市川	
第7回	2	関節運動学	関節内運動学		市川	
第8回	2	関節運動学	関節内運動学		市川	
第9回	2	運動学の基礎	運動連鎖		市川	
第10回	2	運動学の基礎	運動連鎖		市川	
第11回	2	運動学の基礎	開運動連鎖と閉運動連鎖		市川	
第12回	2	運動学の基礎	開運動連鎖と閉運動連鎖		市川	
第13回	2	運動学の基礎	運動学習理論		市川	
第14回	2	運動学の基礎	運動学習理論		市川	
第15回	2	総括 まとめ	総括 まとめ		市川	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
10		医療基礎統合論	開講時期	1年後期	倉橋 智		
			授業時間	60			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、これまで学んだ科目(特に解剖学・生理学・運動学)の学習をフォローする目的で概略を学び直す。 さらに3年後の国家試験を見据え、これまで学んだ科目の国家試験問題を解き知識の定着を図る。 教育目標該当項目: ②③⑤					教科書(著者/書名/発行所) 無し。配布資料により行う		
					キーワード 解剖学 生理学 運動学		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と骨粗鬆症繋がりを繋げる。			倉橋	
第2回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と骨折の治癒を繋げる。			倉橋	
第3回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と末梢神経障害の症状を繋げる。			倉橋	
第4回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と腰痛を繋げる。			倉橋	
第5回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と大腿骨頸部骨折を繋げる。			倉橋	
第6回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と変形性関節症を繋げる。			倉橋	
第7回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と側弯症を繋げる。			倉橋	
第8回	2	運動器系	ケーススタディ			倉橋	
第9回	2	国家試験対策	運動器の共通・専門国家試験対策			倉橋	
第10回	2	循環器系	循環器系の解剖と生理と心不全を繋げる。			倉橋	
第11回	2	循環器系	循環器系の解剖と生理と狭心症を繋げる。			倉橋	
第12回	2	循環器系	循環器系の解剖と生理と心筋梗塞を繋げる。			倉橋	
第13回	2	循環器系	循環器系の解剖と生理と心電図の異常を繋げる。			倉橋	
第14回	2	循環器系	ケーススタディ			倉橋	
第15回	2	国家試験対策	循環器の共通・専門国家試験対策			倉橋	
第16回	2	呼吸器系	呼吸器系の解剖と生理とCOPDを繋げる。			倉橋	
第17回	2	呼吸器系	呼吸器系の解剖と生理と肺気腫を繋げる。			倉橋	
第18回	2	呼吸器系	呼吸器系の解剖と生理と壺球機能検査を繋げる。			倉橋	
第19回	2	呼吸器系	ケーススタディ			倉橋	
第20回	2	国家試験対策	呼吸器系の共通・専門国家試験対策			倉橋	
第21回	2	神経系	神経系の解剖と生理と脳血管障害を繋げる。			倉橋	
第22回	2	神経系	神経系の解剖と生理とパーキンソン病を繋げる			倉橋	
第23回	2	神経系	神経系の解剖と生理とSCD・ALSを繋げる。			倉橋	
第24回	2	神経系	ケーススタディ			倉橋	
第25回	2	国家試験対策	呼吸器系の共通・専門国家試験対策			倉橋	
第26回	2	代謝系	代謝系の解剖と生理と糖尿病を繋げる。			倉橋	
第27回	2	代謝系	代謝系の解剖と生理と運動の効果を繋げる。			倉橋	
第28回	2	代謝系	ケーススタディ			倉橋	
第29回	2	国家試験対策	代謝系の共通・専門国家試験対策			倉橋	
第30回	2	まとめ	総復習			倉橋	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	
11		人体構造機能学Ⅰ	開講時期	1年通年	熊澤 真理子	
			授業時間	60		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位
科目概要・目的 生体内外の種々の変化に適応して生体全体として調和のとれた生命現象を勉強し、この状態を保つための神経系と体液性調節による機能を勉強する。 教育目標該当項目： ②③					教科書(著者/書名/発行所) 岡田隆夫他/標準理学療法学・作業療法学 生理学/医学書院 キーワード 細胞、血液、呼吸、尿、消化、内分泌、生殖、筋、心臓、興奮、中枢神経	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	生命現象と人体	生理学とは 浸透圧 ホメオスタシス		熊澤	
第2回	2	細胞の構造と機能	細胞膜 核 細胞小器官		熊澤	
第3回	2	血液	血液の組成と機能		熊澤	
第4回	2	血液	血漿		熊澤	
第5回	2	呼吸とガスの運搬	外呼吸と内呼吸		熊澤	
第6回	2	呼吸とガスの運搬	ガス交換とガス運搬		熊澤	
第7回	2	呼吸とガスの運搬	呼吸の調節		熊澤	
第8回	2	尿の生成と排泄	腎臓の役割		熊澤	
第9回	2	尿の生成と排泄	排尿		熊澤	
第10回	2	酸塩基平衡	血漿のpH調節 アシドーシス、アルカローシス		熊澤	
第11回	2	消化と吸収	消化器の役割		熊澤	
第12回	2	消化と吸収	胃、十二指腸における消化		熊澤	
第13回	2	消化と吸収	肝臓の役割		熊澤	
第14回	2	内分泌	ホルモンの役割		熊澤	
第15回	2	内分泌	下垂体、視床下部のホルモン		熊澤	
第16回	2	内分泌	副腎皮質、副腎髄質、膵臓のホルモン		熊澤	
第17回	2	内分泌	その他の内分泌腺・内分泌細胞		熊澤	
第18回	2	代謝	栄養素		熊澤	
第19回	2	代謝	体温		熊澤	
第20回	2	生殖	男性生殖器		熊澤	
第21回	2	生殖	女性生殖器		熊澤	
第22回	2	静止電位・活動電位	静止電位と活動電位		熊澤	
第23回	2	筋と骨	骨格筋		熊澤	
第24回	2	筋と骨	心筋・平滑筋		熊澤	
第25回	2	心臓と循環	血液の循環		熊澤	
第26回	2	心臓と循環	血液の拍出と血圧		熊澤	
第27回	2	神経の興奮伝導と末梢神経	伝導 自律神経		熊澤	
第28回	2	神経の興奮伝導と末梢神経	伝達		熊澤	
第29回	2	中枢神経	脊髄・脳幹		熊澤	
第30回	2	中枢神経	間脳		熊澤	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
12		人体構造機能学Ⅱ	開講時期	1年前期	姉帯 飛高		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法の臨床において必須となる運動器(骨・関節・靭帯・骨格筋)の解剖学的特徴を解説する。					教科書(著者/書名/発行所) 金子丑之助/日本人体解剖学(上巻)/南山堂		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 運動器、骨、関節、靭帯、骨格筋、運動		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	解剖学総論①	解剖学を学ぶことの意義、人体の見かた		姉帯		
第2回	2	解剖学総論②	人体の構成単位とその詳細		姉帯		
第3回	2	骨関節学総論①	骨のミクロ・マクロ構造、骨の種類、全身の骨格		姉帯		
第4回	2	骨関節学総論②	関節の種類と基本構造、関節運動		姉帯		
第5回	2	骨学各論①	骨学実習①: 脊柱と胸郭		姉帯		
第6回	2	骨学各論②	骨学実習②: 脊柱と胸郭		姉帯		
第7回	2	骨学各論③	骨学実習③: 頭蓋		姉帯		
第8回	2	骨学各論④	骨学実習④: 頭蓋		姉帯		
第9回	2	骨学各論⑤	骨学実習⑤: 上肢		姉帯		
第10回	2	骨学各論⑥	骨学実習⑥: 上肢		姉帯		
第11回	2	骨学各論⑦	骨学実習⑦: 下肢・骨盤		姉帯		
第12回	2	骨学各論⑧	骨学実習⑧: 下肢・骨盤		姉帯		
第13回	2	関節・靭帯学各論①	関節・靭帯実習①: 上肢		姉帯		
第14回	2	関節・靭帯学各論②	関節・靭帯実習②: 下肢		姉帯		
第15回	2	総格(中間)①	中間総括と解説		姉帯		
第16回	2	総格(中間)②	中間総括と解説		姉帯		
第17回	2	筋学総論	筋の種類、ミクロ・マクロ構造、筋の機能		姉帯		
第18回	2	筋学各論①	頭頸部の筋: 表情筋、外眼筋、咀嚼筋		姉帯		
第19回	2	筋学各論②	体幹の筋①: 頸部、胸部の筋		姉帯		
第20回	2	筋学各論③	体幹の筋②: 腹部、背部、骨盤底の筋		姉帯		
第21回	2	筋学各論④	上肢の筋①: 上肢帯、上腕の筋		姉帯		
第22回	2	筋学各論⑤	上肢の筋②: 上肢帯、上腕の筋		姉帯		
第23回	2	筋学各論⑥	上肢の筋③: 前腕、手部の筋		姉帯		
第24回	2	筋学各論⑦	上肢の筋④: 前腕、手部の筋		姉帯		
第25回	2	筋学各論⑧	下肢の筋①: 寛骨内筋、寛骨外筋		姉帯		
第26回	2	筋学各論⑨	下肢の筋②: 大腿部の筋		姉帯		
第27回	2	筋学各論⑩	下肢の筋③: 下腿・足部の筋		姉帯		
第28回	2	筋学各論⑪	下肢の筋④: 下腿・足部の筋		姉帯		
第29回	2	総括(期末)①	期末総括と解説①		姉帯		
第30回	2	総括(期末)②	期末総括と解説②		姉帯		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
13		人体構造機能学Ⅲ	開講時期	1年後期	姉帯 飛高		
			授業時間	60			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院2年、介護老人保健施設3年の実務経験を活かし、理学療法の臨床において必須となる神経系(中枢神経系、末梢神経系)ならびに内臓系(循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器)の解剖学的特徴を解説する。					教科書(著者/書名/発行所) 金子丑之助/日本人体解剖学(下巻)/南山堂		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 中枢神経、末梢神経、伝導路、脳神経、脊髄神経、神経叢/心臓、大循環、小循環、呼吸器、消化器、泌尿生殖器		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	神経解剖学総論	ニューロン、中枢神経、末梢神経		姉帯		
第2回	2	中枢神経解剖学各論①	大脳の基本構成と機能、脳溝、脳回、脳葉		姉帯		
第3回	2	中枢神経解剖学各論②	大脳の機能局在、間脳・脳幹・小脳の基本構成		姉帯		
第4回	2	中枢神経解剖学各論③	脊髄の基本構成、頸膨大、腰膨大		姉帯		
第5回	2	中枢神経解剖学各論④	伝導路①: 神経線維構築、連合線維、交連線維、投射線維		姉帯		
第6回	2	中枢神経解剖学各論⑤	伝導路②: 下行性伝導路と上行性伝導路		姉帯		
第7回	2	末梢神経解剖学各論①	脳神経の基本構成と機能①		姉帯		
第8回	2	末梢神経解剖学各論②	脳神経の基本構成と機能②		姉帯		
第9回	2	末梢神経解剖学各論③	脊髄神経の基本構成(肋間神経)		姉帯		
第10回	2	末梢神経解剖学各論④	頸腕神経叢①		姉帯		
第11回	2	末梢神経解剖学各論⑤	頸腕神経叢②		姉帯		
第12回	2	末梢神経解剖学各論⑥	脊髄神経: 腰仙骨神経叢①		姉帯		
第13回	2	末梢神経解剖学各論⑦	脊髄神経: 腰仙骨神経叢②		姉帯		
第14回	2	末梢神経解剖学各論⑧	自律神経		姉帯		
第15回	2	内臓学総論①	体腔、胸膜、腹膜		姉帯		
第16回	2	内臓学総論②	胸腹部内臓の基本構成と機能		姉帯		
第17回	2	循環器解剖学各論①	心臓の基本構成、心膜腔、体(大)循環、肺(小)循環		姉帯		
第18回	2	循環器解剖学各論②	胎児循環		姉帯		
第19回	2	循環器解剖学各論③	壁側の主要血管		姉帯		
第20回	2	循環器解剖学各論④	臓側の主要血管		姉帯		
第21回	2	呼吸器解剖学各論①	呼吸器の基本構成、内呼吸・外呼吸		姉帯		
第22回	2	呼吸器解剖学各論②	肺の基本構造、胸膜洞、ガス交換		姉帯		
第23回	2	消化器解剖学各論①	消化器の基本構造と機能、上皮組織		姉帯		
第24回	2	消化器解剖学各論②	消化腺の基本構造と機能、門脈、胆汁路		姉帯		
第25回	2	泌尿生殖器学各論①	尿路の基本構造と機能、精査		姉帯		
第26回	2	泌尿生殖器学各論②	腎臓の基本構造、ネフロン、内分泌系		姉帯		
第27回	2	動物標本による局所解剖学実習①	胸腹部内臓の観察(原位置)		姉帯		
第28回	2	動物標本による局所解剖学実習②	胸腹部内臓&付帯構造の局所解剖		姉帯		
第29回	2	総括(期末)①	後期総括と解説①		姉帯		
第30回	2	総括(期末)②	後期総括と解説②		姉帯		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
14		人体構造機能学Ⅳ	開講時期	1年後期	市川 真莉那		
			授業時間	15			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器に関する構造と機能を学び、理学療法実践者としての基礎的な知識を身につける。					教科書(著者/書名/発行所) 岡田隆夫他/標準理学療法学・作業療法学 生理学/医学書院 金子丑之助/日本人体解剖学 上巻/南山堂 中村隆一/基礎運動学/医歯薬出版株式会社		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 心臓、肺、血管、リンパ管、循環器、呼吸器、呼吸運動、ガス交換、血圧、心臓の刺激伝導系		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	循環器	心臓の構造と機能と刺激伝導系		市川		
第2回	2	循環器	血管およびリンパの構造と機能		市川		
第3回	2	循環器	血液の組成と機能、循環・血圧の調整		市川		
第4回	2	循環器	肺の構造と機能		市川		
第5回	2	循環器	ガス交換とガス運搬		市川		
第6回	2	循環器	酸塩基平衡		市川		
第7回	2	循環器	呼吸運動と調節		市川		
第8回	2	循環器呼吸器	運動と循環器呼吸器		市川		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
15		人体構造機能演習	開講時期	1年前期	担当者	倉橋 智	
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。 また、触診を演習するに至っては、理学療法士としてのコミュニケーションの一端も学んでいく。 ・実技テスト・ミニテストを数回実施し、理解・到達度の確認を行う。 教育目標該当項目： ①②③⑤					教科書(著者/書名/発行所) 林典雄 執筆/運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢/MEDICAL VIEW 林典雄 執筆/運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹/MEDICAL VIEW キーワード ①四肢体幹の骨触診 ②四肢体幹の筋触診 ③四肢体幹の靭帯触診 ④四肢体幹の脈管触診		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	筋骨格系の触察の仕方	骨を触察するときに手掌や指の使い方を学ぶ		倉橋		
第2回	2	筋骨格系の触察の仕方	骨を触察するときに手掌や指の使い方を学ぶ		倉橋		
第3回	2	肩甲骨の触察	肩甲骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第4回	2	上腕骨の触察	上腕骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第5回	2	前腕骨の触察	前腕骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第6回	2	手根骨の触察	手根骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第7回	2	寛骨の触察	寛骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第8回	2	下肢骨の触察	下肢骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第9回	2	足根骨の触察	足根骨の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第10回	2	上肢筋の触察	上肢筋の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第11回	2	上肢筋の触察	上肢筋の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第12回	2	下肢筋の触察	下肢筋の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第13回	2	下肢筋の触察	下肢筋の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第14回	2	体幹の触察	体幹の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
第15回	2	体幹の触察	体幹の部位を口頭で示しながら触察を学ぶ		倉橋		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
16		基礎病態論	開講時期	1年後期	星本 和種／今村 哲夫		
			授業時間	30			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 医療にかかわるすべての者は疾病について十分な知識を有することが必要である。病理学とは疾病の原因とその成り立ちについての学問であり、医学・医療の最も基本的な学問である。その内容は、循環障害・炎症や腫瘍など疾病に共通する病変についての学問である総論と、各臓器・組織の疾患各々についての学問である各論に大きく分類される。代表的な疾患について、その疾患に関する各論的な深い知識と、その際に生じる総論的な現象について理解する。 教育目標該当項目: ③④					教科書(著者/書名/発行所) 梶原博毅／標準理学療法学・作業療法学 病理学／医学書院 キーワード 病理学総論、病理学各論		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	病理学総論	病理学の概要、病因論		星本		
第2回	2	病理学総論	退行性病変、進行性病変、老化		星本		
第3回	2	病理学総論	腫瘍		星本		
第4回	2	病理学総論	消化器		星本		
第5回	2	病理学総論/各論	循環障害、循環器		星本		
第6回	2	病理学各論	呼吸器		星本		
第7回	2	病理学総論	免疫、炎症・感染症		星本		
第8回	2	病理学各論	造血器		星本		
第9回	2	病理学総論/各論	代謝異常、内分泌臓器		星本		
第10回	2	病理学各論	神経系		星本		
第11回	2	病理学各論	泌尿器・生殖器		星本		
第12回	2	病理学各論	泌尿器・生殖器		星本		
第13回	2	病理学各論	運動器		今村		
第14回	2	病理学各論	運動器		今村		
第15回	2	病理学総論/各論	放射線障害、先天異常・奇形、皮膚・感覚器		星本		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
17		臨床心理学	開講時期	1年前期	担当者	井古田 大介	
			授業時間	30			
			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的					単位数	2 単位	講義
臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かし、心理的問題を持つ人の臨床心理的アセスメントと心理的援助方法を解説する。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ③④					窪内節子・吉武光世/やさしく学べる心理療法の基礎/培風館		
					キーワード		
					心理検査、精神分析療法、来談者中心療法、認知・行動療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	性格心理学①	性格の心理について理解する		井古田		
第2回	2	知能検査	知能検査について理解する		井古田		
第3回	2	心理検査①	質問紙法を理解する		井古田		
第4回	2	心理検査②	投影法を理解する		井古田		
第5回	2	心理検査③	作業検査法を理解する		井古田		
第6回	2	心理療法とは	心理療法の概要について理解する		井古田		
第7回	2	精神分析療法①	精神分析を理解する		井古田		
第8回	2	精神分析療法②	防衛機制を理解する		井古田		
第9回	2	来談者中心療法①	来談者中心療法を理解する		井古田		
第10回	2	来談者中心療法②	受容・共感・自己一致について理解する		井古田		
第11回	2	行動療法	行動療法を理解する		井古田		
第12回	2	認知行動療法	認知行動療法を理解する		井古田		
第13回	2	森田療法	森田療法を理解する		井古田		
第14回	2	内観療法	内観療法を理解する		井古田		
第15回	2	まとめ	総括(テスト)をおこなう		井古田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
18		精神疾患論	開講時期	1年後期	井古田 大介		
			授業時間	30			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かした授業を行う。リハビリテーションを実施するうえで必要な精神疾患の病態・診断・治療に関する基本的知識を習得する。					教科書(著者/書名/発行所) 奈良勲他/心理・精神領域の理学療法 はじめの一歩/医歯薬出版		
教育目標該当項目: ③④					キーワード 統合失調症、抑うつ、不安、発達症、摂食障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	精神疾患論とは何か	精神疾患の歴史について理解する		井古田		
第2回	2	精神疾患のアセスメント	精神疾患の診断について理解する		井古田		
第3回	2	統合失調症①	統合失調症の症状について理解する		井古田		
第4回	2	統合失調症②	統合失調症の対応について理解する		井古田		
第5回	2	統合失調症③	統合失調症の対応について理解する		井古田		
第6回	2	抑うつ障害(症)	抑うつ障害の症状と対応について理解する		井古田		
第7回	2	双極性障害(症)	双極性障害の症状と対応について理解する		井古田		
第8回	2	自殺	自殺の予防について理解する		井古田		
第9回	2	不安症①	不安について理解する		井古田		
第10回	2	不安症②	パニック症、社交不安症について理解する		井古田		
第11回	2	不安症③	恐怖症、強迫症、PTSDについて理解する		井古田		
第12回	2	神経発達症①	自閉スペクトラム症(ASD)について理解する		井古田		
第13回	2	神経発達症②	ADHD、LDについて理解する		井古田		
第14回	2	摂食障害	摂食障害の理解と対応について理解する		井古田		
第15回	2	まとめ	総括(テスト)をおこなう		井古田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	本持 英児
19		整形障害論	開講時期	2年通年		
			授業時間	60		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的					演習	
理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設4年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションで対象となる運動器障害の整形外科疾患の病態と治療について理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目: ③④⑤					立野勝彦/整形外科学/医学書院 井樋栄二/標準整形外科/医学書院	
					キーワード	
					①全身性障害の病態 ②局所障害の病態 ③画像評価の方法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	整形外科学総論①	「整形外科学について」「整形外科学的診断学」		本持	
第2回	2	整形外科学総論②	「整形外科学的治療法」		本持	
第3回	2	全身性の疾患①	「慢性関節疾患」		本持	
第4回	2	全身性の疾患②	「リウマチとその類縁疾患」		本持	
第5回	2	全身性の疾患③	「リウマチとその類縁疾患」		本持	
第6回	2	全身性の疾患④	「感染症」「代謝・内分泌疾患」		本持	
第7回	2	全身性の疾患⑤	「骨・軟部腫瘍」		本持	
第8回	2	全身性の疾患⑥	「骨系統疾患」「骨壊死性疾患および骨端症」		本持	
第9回	2	全身性の疾患⑦	「四肢循環障害」「四肢切断および四肢欠損」		本持	
第10回	2	全身性の疾患⑧	「慢性疼痛疾患」		本持	
第11回	2	全身性の疾患⑨	「スポーツ整形外科」		本持	
第12回	2	全身性の疾患⑩	「筋疾患」		本持	
第13回	2	全身性の疾患⑪	「末梢神経疾患」		本持	
第14回	2	軟部組織損傷 総論	「軟部組織損傷」		本持	
第15回	2	部位別の外傷と疾患①	「肩関節および上腕」		本持	
第16回	2	部位別の外傷と疾患②	「肩関節および上腕」		本持	
第17回	2	部位別の外傷と疾患③	「肘関節および前腕」		本持	
第18回	2	部位別の外傷と疾患④	「手関節と手指」		本持	
第19回	2	部位別の外傷と疾患⑤	「股関節及び大腿」		本持	
第20回	2	部位別の外傷と疾患⑥	「股関節及び大腿」		本持	
第21回	2	部位別の外傷と疾患⑦	「膝関節および下腿」		本持	
第22回	2	部位別の外傷と疾患⑧	「膝関節および下腿」		本持	
第23回	2	部位別の外傷と疾患⑨	「足関節と足部」		本持	
第24回	2	部位別の外傷と疾患⑩	「脊椎・脊髄」		本持	
第25回	2	部位別の外傷と疾患⑪	「脊椎・脊髄」		本持	
第26回	2	部位別の外傷と疾患⑫	「脊椎・脊髄」		本持	
第27回	2	画像評価	骨折・脱臼・関節症		本持	
第28回	2	画像評価	靭帯損傷・腱断裂・半月板		本持	
第29回	2	画像評価	脊椎・脊髄		本持	
第30回	2	総括	最新の整形外科領域の動向について		本持	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	関 良平	
20		内部障害論	開講時期	2年通年	担当者	関 良平	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として老人保健施設、老人福祉施設10年以上の実務経験を活かした授業で、内部障害について解説する。内部障害は、外傷や脳卒中後の障害の様には見えないで始まり、ある程度進行して初めて発症する。しかも、循環器、呼吸器疾患は分かりやすいが、代謝疾患、免疫疾患、多臓器疾患、DICなどは全身疾患である。これらを一つのまとまりある疾患として理解し、さらに高齢化も考慮し社会参加を促進することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 前田真治他/標準理学療法・作業療法学内科学/医学書院 キーワード 内部障害の始まり、発症、進行、面接、症候、画像診断、血液検査、鑑別診断、確定診断、治療、治癒、寛解、不全治癒、残存機能の温存、社会参加		
教育目標該当項目: ③④							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	内部障害の概念とリハビリの必要性	脳梗塞の患者は動脈硬化以外にも糖尿病なども合併			関	
第2回	2	内科疾患の治療と内部障害リハ	内科疾患の診断、治療と内部障害のアセスメントとリハ			関	
第3回	2	発熱などの症候と片麻痺の障害	解熱剤による治療とリハによる機能改善の違いを理解			関	
第4回	2	心臓と肺の関係	心臓は酸素運搬のポンプ、肺は血液に酸素を取入れる			関	
第5回	2	心筋拍出力、刺激伝導系、心不全	冠動脈硬化は心収縮力低下と不整脈、心不全の原因			関	
第6回	2	虚血性心疾患における訓練禁忌	上室性と心室性期外収縮、心室頻脈、心室細動、AED			関	
第7回	2	肺機能のスパイロメトリ検査	閉塞性換気障害と拘束性換気障害、フローボリューム曲線			関	
第8回	2	タバコと肺気腫、即時免疫と喘息	肺気腫のリハ、自律神経支配と喘息、MGのリハ			関	
第9回	2	消化器、口、食道、胃、腸、肛門の症候	マックバーネイ等の圧痛点、イレウス、ニポー、癌			関	
第10回	2	消化器、口、食道、胃、腸、肛門の症候	入れ歯の不具合、嚥下性肺炎、肝硬変と門脈圧亢進			関	
第11回	2	消化器、口、食道、胃、腸、肛門の症候	吐血、下血、逆流性食道炎、胃瘻、大腸癌と人工肛門			関	
第12回	2	肝臓、胆管、膵臓の関連と機能	肝臓(門脈、肝動脈、肝静脈、細胆管)総胆管、十二指腸へ			関	
第13回	2	肝臓、胆管、膵臓の関連と機能	膵の外分泌とランゲルハンス島の内分泌			関	
第14回	2	肝臓、胆管、膵臓の関連と機能	インスリンと糖尿病、HbA1c、血糖値			関	
第15回	2	血液の成分、造血組織、貧血、止血	鉄欠乏性貧血、悪性貧血、内因子、溶血性貧血			関	
第16回	2	血液の成分、造血組織、貧血、止血	血栓症、血栓溶解(t-PA療法)、白血病			関	
第17回	2	血液の成分、造血組織、貧血、止血	多臓器不全(DIC Disseminated Intravascular Coaglation)			関	
第18回	2	タンパク質、脂肪、炭水化物の代謝	タンパク質は窒素元素Nを持つ。尿素として腎から排泄			関	
第19回	2	タンパク質、脂肪、炭水化物の代謝	脂質は動脈硬化とホルモンに関連、ブドウ糖は脳に必須			関	
第20回	2	タンパク質、脂肪、炭水化物の代謝	代謝性疾患(メタボシンドローム、糖尿病、生活習慣病)			関	
第21回	2	内分泌調節機構(視床下部→性腺)	調節機構、下垂体門脈、前葉は腺組織、後葉は神経組織			関	
第22回	2	内分泌疾患	ADH↓尿崩症、GH↑巨人症、TSH↑バセドウ、ACTH↑クッシング			関	
第23回	2	腎の基本単位ネフロン、3ホルモン	GFR、BUN、クリアランス、腎不全、糖尿病性腎症、腎性貧血			関	
第24回	2	腎疾患	急性腎不全、慢性、糸球体腎炎、代謝性アシドーシス			関	
第25回	2	アレルギー、膠原病、免疫疾患	免疫担当細胞(単球、マクロファージ、B、Tリンパ球、NK cell)腫瘍			関	
第26回	2	アレルギー、膠原病、免疫疾患	液性免疫=Ig-抗体、細胞性免疫=NK cell、dendritic cell			関	
第27回	2	アレルギー、膠原病、免疫疾患	アレルギー-(1型即時型、2 溶血、MG 3腎炎、4遅延型、5アレルギー)			関	
第28回	2	感染症の成立の3条件	病原体、感染経路、感受性。ウイルス→寄生虫、			関	
第29回	2	感染症の成立の4条件	1次予防(自然免疫、人工免疫、受動免疫、能動免疫、ワクチン)			関	
第30回	2	感染症の成立の5条件	話題、院内感染、再興新興感染症、SARS、MERS、COVID-19			関	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
21		神経障害論	開講時期	2年通年	担当者	板子 伸子	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設2年間の実務経験を活かした授業で、神経障害の患者の症状の理解とリハビリテーションの関連性について理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 神経内科学 第5版 医学書院		
教育目標該当項目: ③④					キーワード 中枢神経の区分、脳脊髄液の循環、 神経生理学的検査、脳血管障害・神 経変性疾患・画像評価(脳CT・MRI・脳 波等)・薬物療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	中枢神経系の解剖	中枢神経系の構造を理解する。		板子		
第2回	2	中枢神経系の機能	中枢神経系の機能を理解する。		板子		
第3回	2	神経学的診断と評価	神経学的診断の目的、内容、手順等について学ぶ。		板子		
第4回	2	神経学的検査法	検査法の原理と異常所見の診断的意義を学ぶ。		板子		
第5回	2	意識障害と頭痛、めまい、失神	意識障害と頭痛の診断法と分類を学ぶ。		板子		
第6回	2	運動麻痺、筋委縮、不随意運動	錐体路障害と錐体外路徴候について学ぶ。		板子		
第7回	2	運動失調と感覚障害	運動失調の分類と特徴、感覚障害の分類と分布		板子		
第8回	2	高次脳機能障害1	失語症		板子		
第9回	2	高次脳機能障害2	失認と失行		板子		
第10回	2	高次脳機能障害3	記憶障害、注意障害、遂行障害		板子		
第11回	2	構音・嚥下障害、脳外科的症候	構音・嚥下に関与する神経・筋、脳ヘルニア		板子		
第12回	2	脳血管障害①	脳血管障害の全体像		板子		
第13回	2	脳血管障害②	脳血管障害の診断と治療		板子		
第14回	2	脳血管障害③	脳血管障害のリハビリテーション		板子		
第15回	2	認知症	認知症の症状、病因、鑑別診断、治療可能な認知症		板子		
第16回	2	脳腫瘍	脳腫瘍総論、脳腫瘍各論		板子		
第17回	2	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の分類、発生、好発部位、症状		板子		
第18回	2	総括1	総括と試験		板子		
第19回	2	脊髄疾患	脊髄損傷とその合併症、脊髄腫瘍		板子		
第20回	2	変性疾患1	変性疾患(錐体外路系を除く)、脱髄疾患		板子		
第21回	2	変性疾患2	錐体外路系の変性疾患		板子		
第22回	2	末梢神経障害	末梢神経損傷、末梢性ニューロパシー		板子		
第23回	2	てんかん、筋疾患	てんかんの診断と治療、進行性筋ジストロフィー		板子		
第24回	2	感染性疾患	髄膜炎、脳炎、神経梅毒、HAM、HIV、急性灰白髄炎		板子		
第25回	2	中毒性疾患	無機物、有機物、生物由来毒素、薬物による中毒		板子		
第26回	2	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症候群、先天性代謝異常		板子		
第27回	2	廃用症候群	廃用症候群、誤用症候群、神経疾患に伴う合併症		板子		
第28回	2	排尿障害1	排尿中枢の機能分担による排尿調節		板子		
第29回	2	排尿障害2	神経因性膀胱、膀胱内圧曲線		板子		
第30回	2	総括2	総復習と試験		板子		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	小松 昌久
22		発達障害論	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的					講義	
理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解できる。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目: ③④					上杉雅之 監修「イラストでわかる小児理学療法」医歯薬出版	
					キーワード	
					脳性麻痺、二分脊椎、水頭症、悪性腫瘍、遺伝子、染色体異常、系統疾患	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	染色体異常に対する理解と運動療法		小松	
第2回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	重症心身障害児に対する理解と理学療法		小松	
第3回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	NICUにおける理学療法		小松	
第4回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	発達障害に対する理解と運動療法		小松	
第5回	2	二分脊椎	二分脊椎の発生原因や疾患の特徴について		小松	
第6回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法		小松	
第7回	2	筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症の発生原因や疾患の特徴について		小松	
第8回	2	筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症に対する運動療法		小松	
第9回	2	小児整形外科疾患	小児特有の整形外科疾患の特徴と理学療法の理解		小松	
第10回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要が説明できる		小松	
第11回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要が説明できる		小松	
第12回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要が説明できる		小松	
第13回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法		小松	
第14回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法		小松	
第15回	2	総括	まとめ		小松	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
23		老年学	開講時期	1年後期	担当者	矢作 浩	
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的					単位数	1 単位	演習
人口の高齢化が急速に進行し、高齢化社会となっている。医療においても、高齢者が診療やリハビリテーションの対象となる機会が多く、老化や老年病に対する十分な理解がますます必要になっている。老年学では、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、加齢に伴う心身の変化や、高齢者で問題になることが多い症候、病態、疾病について学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ③④					標準理学療法学・作業療法学 専門 基礎分野 老年学 医学書院		
					キーワード		
					加齢による変化、老年症候群、サルコペニア、フレイル、認知症、老化と疾患、脊椎疾患、末梢神経障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	老年学総論	老化の定義、老年病の成り立ち		矢作		
第2回	2	老年学総論	生理機能、運動機能、精神心理に対する加齢の影響		矢作		
第3回	2	高齢者の機能評価	ADL、知的機能、QOL(一般的、疾患別)の評価方法		矢作		
第4回	2	老年症候群	老年症候群の概念、代表的な老年症候群		矢作		
第5回	2	循環器疾患	循環器領域における老化と疾患		矢作		
第6回	2	呼吸器疾患	呼吸器領域における老化と疾患		矢作		
第7回	2	消化器疾患	消化器領域における老化と疾患		矢作		
第8回	2	骨・運動器疾患	骨・運動器領域における老化と疾患		矢作		
第9回	2	神経・精神疾患	神経内科領域、精神領域における老化と疾患		矢作		
第10回	2	内分泌代謝疾患	内分泌代謝領域の老化と疾患		矢作		
第11回	2	血液・免疫疾患	血液・免疫領域の老化と疾患		矢作		
第12回	2	皮膚・口腔疾患	高齢者の皮膚疾患、口腔疾患の特徴		矢作		
第13回	2	感染症	高齢者の感染症		矢作		
第14回	2	眼疾患	高齢者の視覚障害をもたらす代表的な疾患		矢作		
第15回	2	総括と試験	総括と試験		矢作		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 誠
24		リハビリテーション概論	開講時期	1年通年	担当者	持田 誠
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院10年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの概念を理解する。また、学んできた基礎医学とリハビリテーションの関連についても取り組む 教育目標該当項目： ③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論/診断治療社 キーワード リハビリテーション・医療・福祉制度、法規、関連制度・個人情報保護法・医療安全・感染予防	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	ヒト、人、人間の違い	ヒト、人、人間の用語の使い分けおよび捉え方を学ぶ		持田	
第2回	2	人間とは	人間という概念を理解する		持田	
第3回	2	医療とは	医療概念を理解する		持田	
第4回	2	医療とは	医療概念を理解する		持田	
第5回	2	医療とは	医学の関りを理解する		持田	
第6回	2	介護とは	介護概念を理解する		持田	
第7回	2	介護とは	介護保険を理解する		持田	
第8回	2	予防とは	一次予防、二次予防、三次予防を学ぶ		持田	
第9回	2	予防とは	一次予防、二次予防、三次予防を学ぶ		持田	
第10回	2	難病とは	国の難病対策について理解する		持田	
第11回	2	リハビリテーション	概念を学ぶ		持田	
第12回	2	リハビリテーション	概念を学ぶ		持田	
第13回	2	リハビリテーション	概念を学ぶ		持田	
第14回	2	リハビリテーション	概念を学ぶ		持田	
第15回	2	理学療法士及び作業療法士法	関連職種について学ぶ		持田	
第16回	2	理学療法士及び作業療法士法	関連職種について学ぶ		持田	
第17回	2	理学療法士及び作業療法士法	関連職種について学ぶ		持田	
第18回	2	理学療法士及び作業療法士法	関連職種について学ぶ		持田	
第19回	2	廃用症候群と基礎医学	基礎医学との関連を学ぶ		持田	
第20回	2	廃用症候群と基礎医学	基礎医学との関連を学ぶ		持田	
第21回	2	廃用症候群と基礎医学	基礎医学との関連を学ぶ		持田	
第22回	2	廃用症候群と基礎医学	基礎医学との関連を学ぶ		持田	
第23回	2	リハビリテーションと基礎医学	リハビリテーションと基礎医学の関連を学ぶ		持田	
第24回	2	リハビリテーションと基礎医学	リハビリテーションと基礎医学の関連を学ぶ		持田	
第25回	2	リハビリテーションと基礎医学	リハビリテーションと基礎医学の関連を学ぶ		持田	
第26回	2	リハビリテーションと基礎医学	リハビリテーションと基礎医学の関連を学ぶ		持田	
第27回	2	ケーススタディ	ケーススタディを通じリハビリテーションを考察できる		持田	
第28回	2	ケーススタディ	ケーススタディを通じリハビリテーションを考察できる		持田	
第29回	2	ケーススタディ	ケーススタディを通じリハビリテーションを考察できる		持田	
第30回	2	ケーススタディ	ケーススタディを通じリハビリテーションを考察できる		持田	
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
25		多職種連携論	開講時期	3年前期	大和田 和彦		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 患者・家族にとって最適の医療を効率的に提供するためには、職種間協働にもとづく「チーム医療」の推進が必要である。講義では、理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、医療の枠にとらわれず、これから健康・医療・福祉の専門職を目指すものとして、対象者を中心としたチーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)		
					配布物による		
教育目標該当項目: ④					キーワード		
					国際生活機能分類(ICF)・リハビリテーション関連職種とその役割・チームアプローチ・リハビリテーションプログラム、クリニカルパス		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	連携の基礎	関連職種の理解・専門職の理解		大和田		
第2回	2						
第3回	2	医療面接とコミュニケーション	基本要素・意思決定・伝え方について理解する		大和田		
第4回	2						
第5回	2	社会保障制度(高齢者)	医療・介護保険制度について理解する		大和田		
第6回	2						
第7回	2	情報共有と評価	情報収集と評価法 ICTについて理解する		大和田		
第8回	2	ICF・ICIDHの理解	共通アセスメントとしての理解を深める		大和田		
第9回	2	地域包括ケアと関連サービス	地域理学療法・地域包括ケアシステムについて理解する		大和田		
第10回	2						
第11回	2	関連職種連携の実際①	ケーススタディを通して多職種連携を学ぶ		大和田		
第12回	2						
第13回	2	関連職種連携の実際②	ケーススタディを通して多職種連携を学ぶ		大和田		
第14回	2						
第15回	2	練習問題	練習問題		大和田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する 確認テストも含む。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
26		生活環境論	開講時期	2年前期	担当者	矢作 浩	
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的					単位数	2 単位	講義
生活環境は、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在するものである。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、そのための基本的な理念と知識について学習する。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ③④					細田多穂/生活環境学テキスト/南江堂		
					キーワード		
					家族、家庭・住環境・地域環境・職場環境・環境の構造・環境と固体		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	生活環境学の概念	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティについて理解する		矢作		
第2回	2	生活環境学の概念	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティについて理解する		矢作		
第3回	2	生活環境を構成する要素	生活環境を構成する要素について理解する		矢作		
第4回	2	物理的環境	物理的環境について理解する		矢作		
第5回	2	車椅子	車椅子の分類・種類・指導方法について理解する		矢作		
第6回	2	歩行補助具	歩行補助具の種類・機能・適応について理解する		矢作		
第7回	2	自助具・補装具	自助具・補装具の種類・機能・適応について理解する		矢作		
第8回	2	経済的環境	経済的環境について理解する		矢作		
第9回	2	制度的環境	制度的環境について理解する		矢作		
第10回	2	人的環境	人的環境について理解する		矢作		
第11回	2	住宅・住宅改修	生活環境としての住宅・住宅改修		矢作		
第12回	2	住宅改修の実践	建築知識の基本と図面化		矢作		
第13回	2	住環境整備の基本的配慮	住宅部位への配慮		矢作		
第14回	2		各部屋への配慮		矢作		
第15回	2	地域環境と公共交通	地域環境と公共交通について理解する		矢作		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	山下 茂 矢作 浩 板子 伸子 市川 真莉那口	
27		運動療法総論	開講時期	2年通年			授業時間
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設2年間の実務経験を活かした理学療法士の授業を中心に、機能障害に対する運動療法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 市橋則明/運動療法学/文光堂		
教育目標該当項目: ②③⑤					キーワード 薬、副作用		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	薬理学・臨床薬理学	なぜ薬理学・臨床薬理学を学ぶのか?		山下		
第2回	2	薬理学・臨床薬理学	薬による疾患治療の本質		山下		
第3回	2	薬理学・臨床薬理学	薬・食物・毒の違い、薬の安全性、薬の受容体		山下		
第4回	2	薬理学・臨床薬理学	薬の代謝と排泄、使用目的による薬の分類、薬の標的		山下		
第5回	2	薬理学・臨床薬理学	生体内物質と薬の作用、医療用医薬品と一般医薬品		山下		
第6回	2	薬理学・臨床薬理学	薬の標的となる分子、薬物の容量と反応、薬の副作用		山下		
第7回	2	薬理学・臨床薬理学	副作用と有害反応、薬物の血中濃度・吸収・分布		山下		
第8回	2	薬理学・臨床薬理学	薬物の代謝、薬物の排泄、薬の効き方の違い		山下		
第9回	2	薬理学・臨床薬理学	薬の作用と華麗、薬の相互作用、薬と食物・健康食品の相互作用		山下		
第10回	2	薬理学・臨床薬理学	総括と試験		山下		
第11回	2	画像診断学	画像診断における総合的な解説		山下		
第12回	2	運動療法	血圧測定とその意義		市川		
第13回	2	運動療法	血圧測定とその意義		市川		
第14回	2	運動療法	心電図計測と心電図波形の見方		市川		
第15回	2	運動療法	心電図計測と心電図波形の見方		市川		
第16回	2	運動療法	呼気ガス分析		市川		
第17回	2	運動療法	呼気ガス分析		市川		
第18回	2	運動療法	関節可動域運動・ストレッチング		矢作		
第19回	2	運動療法	筋力増強運動		矢作		
第20回	2	運動療法	筋持久力		矢作		
第21回	2	運動療法	全身調整運動		矢作		
第22回	2	運動療法	痛みに対する運動療法		矢作		
第23回	3	運動療法	筋再教育		矢作		
第24回	2	脳画像の基礎	脳画像の基本		板子		
第25回	2	脳画像の基礎	脳画像の基本		板子		
第26回	2	理学療法の対象となる神経疾患	脳解剖		板子		
第27回	2	理学療法の対象となる神経疾患	錐体路症状 伝導路		板子		
第28回	2	理学療法の対象となる神経疾患	感覚障害 伝導路		板子		
第29回	2	理学療法の対象となる神経疾患	画像と症状の関連性		板子		
第30回	2	救命救急	救命講習		外部講師		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	市川 真莉那 板子 伸子
28		基礎理学療法学	開講時期	3年前期		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1単位
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かした授業で、機能障害に対する運動療法を学ぶ実習で行う評価技術を実践できるようにする。 教育目標該当項目： ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 才藤栄一/PT・OTのための臨床技能とOSCE/金原出版 キーワード 理学療法評価技術	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	理学療法評価	整形・中枢・内部疾患に対する理学療法評価技術を学び、実践する。			市川・板子
第2回	2	理学療法評価				市川・板子
第3回	2	理学療法評価				市川・板子
第4回	2	理学療法評価				市川・板子
第5回	2	理学療法評価				市川・板子
第6回	2	理学療法評価				市川・板子
第7回	2	理学療法評価				市川・板子
第8回	2	理学療法評価				市川・板子
第9回	2	理学療法評価				市川・板子
第10回	2	理学療法評価				市川・板子
第11回	2	理学療法評価				市川・板子
第12回	2	理学療法評価				市川・板子
第13回	2	理学療法評価				市川・板子
第14回	2	理学療法評価	筆記試験	市川・板子		
第15回	2	理学療法評価	筆記試験及びOSCE 実技試験	市川・板子		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	本持 英児	
29		臨床運動学	開講時期	2年後期			
			授業時間	30			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として、一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設4年間の実務経験を活かした授業で、基本動作をはじめ歩行のシークエンスでバイオメカニクスを学び、動作・歩行分析の理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所) 石井慎一郎/動作分析臨床活用講座/メジカルビュー社 月城慶一訳/観察による歩行分析/医学書院		
②③⑤					キーワード 重心、てこ、モーメント、バイオメカニクス、姿勢制御、起居動作、正常歩行、病的歩行、動作分析		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	臨床運動学の基礎	関節モーメントと筋活動、重心、支持基底面			本持	
第2回	2	起居動作①	正常寝返りのシークエンス、筋活動を理解する。			本持	
第3回	2	起居動作②	正常から逸脱した寝返りのパターンを理解する。			本持	
第4回	2	起居動作③	正常起き上がり動作のシークエンス、筋活動を理解する。			本持	
第5回	2	起居動作④	正常から逸脱した起き上がり動作のパターンを理解する。			本持	
第6回	2	立ち上がり動作①	正常立ち上がり動作のシークエンスと筋活動を理解する。			本持	
第7回	2	立ち上がり動作②	正常から逸脱した立ち上がり動作のシークエンスと筋活動を理解する。			本持	
第8回	2	歩行動作①	正常歩行動作のメカニズム、シークエンス、筋活動を理解する。			本持	
第9回	2	歩行動作②	正常歩行動作のメカニズム、シークエンス、筋活動を理解する。			本持	
第10回	2	歩行動作③	正常歩行動作のメカニズム、シークエンス、筋活動を説明出来る。			本持	
第11回	2	異常歩行①	正常から逸脱した歩行動作のメカニズム、シークエンス、筋活動を理解する。			本持	
第12回	2	異常歩行②	正常から逸脱した歩行動作のメカニズム、シークエンス、筋活動を説明できる。			本持	
第13回	2	症例動作分析①	動画などを用いて逸脱動作の観察・分析表現ができる。			本持	
第14回	2	症例動作分析②	動画などを用いて逸脱動作の観察・分析表現ができる。			本持	
第15回	2	総括	まとめ			本持	
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	
30		理学療法管理学	開講時期	3年前期	大和田 和彦	
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士は、院外、施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化していかねばならない。理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な管理・教育について系統的に学び、リハビリテーション部門の管理について理解を深める。(栄養管理含む。)					教科書(著者/書名/発行所) 斎藤昭彦 他「リハビリテーション管理学」 羊土社	
教育目標該当項目: ①④⑤					キーワード リハビリテーション及び理学療法部門の管理運営・安全管理(インシデント、感染対策等)・情報管理(診療録記録、個人情報保護等)栄養管理	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	リハビリテーション科における管理	専門職の職場管理・OJT・上司と部下の関係		大和田	
第2回	2	組織化①	組織とは何か・部門別体制・質的管理		大和田	
第3回	2	組織化②	リハビリテーション部門組織		大和田	
第4回	2	業務管理	病棟・施設業務管理		大和田	
第5回	2	人事労務管理	倫理的原則・人事計画・インセンティブ		大和田	
第6回	2	教育システム①	生涯学習・キャリア形成・人材育成法		大和田	
第7回	2	教育システム②	職能団体とは・臨床実習指導方法		大和田	
第8回	2	管理職とは	リーダーシップ・マネジメント		大和田	
第9回	2	リスクマネジメント①	リスクマネジメントとは・苦情対応		大和田	
第10回	2	リスクマネジメント②	安全管理(インシデント、感染対策等)		大和田	
第11回	2	経営管理①	効果的な収益管理		大和田	
第12回	2	経営管理②	物品管理と費用対効果		大和田	
第13回	2	地域保健・医療・福祉①	地域医療連携		大和田	
第14回	2	地域保健・医療・福祉②	介護予防活動		大和田	
第15回	2	地域保健・医療・福祉③	対外活動の重要性		大和田	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する 筆記試験・課題の取り組み含む				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	倉橋 智	
31		理学療法評価学Ⅰ	開講時期	1年通年			
			授業時間	150			
		☑実務経験のある教員による授業			単位数	5単位	演習
科目概要・目的 理学療法を行う上で、対象者の障害を把握することは非常に重要である。その手段の一つである検査測定についての種類、目的、方法について学ぶ。本講義では、理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。 ・実技テスト・ミニテストを数回実施し、理解・到達度の確認を行う。					教科書(著者/書名/発行所) 松澤正著 理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版株式会社 新・徒手筋力検査法 共同医書出版社 キーワード 問診、バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査		
教育目標該当項目: ①②③⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価の位置づけ	評価の一連の流れや目的を理解する。		倉橋		
第2回	2	情報収集	患者情報等の情報収集について理解する。		倉橋		
第3回	2	バイタルサイン	覚醒状態や脈、血圧について理解し実施できる。		倉橋		
第4回	2	四肢長	概要を理解し、実施ができる。		倉橋		
第5回	2	四肢長	検査の実施、記録が行える。		倉橋		
第6回	2	周径	概要を理解し、実施ができる。		倉橋		
第7回	2	周径	検査の実施、記録が行える。		倉橋		
第8回	2	実技確認テスト①			倉橋		
第9回	2	実技確認テスト①			倉橋		
第10回	2	実技確認テスト①			倉橋		
第11回	2	実技確認テスト①			倉橋		
第12回	2	関節可動域測定①	関節可動域測定の定義について		倉橋		
第13回	2	関節可動域測定①	関節可動域測定の定義について		倉橋		
第14回	2	関節可動域測定②	肩関節の測定法について		倉橋		
第15回	2	関節可動域測定②	肩関節の測定法について		倉橋		
第16回	2	関節可動域測定③	肘関節・前腕の測定法について		倉橋		
第17回	2	関節可動域測定③	肘関節・前腕の測定法について		倉橋		
第18回	2	関節可動域測定④	手関節・手指の測定法について		倉橋		
第19回	2	関節可動域測定④	手関節・手指の測定法について		倉橋		
第20回	2	関節可動域測定⑤	股関節の測定法について		倉橋		
第21回	2	関節可動域測定⑤	股関節の測定法について		倉橋		
第22回	2	関節可動域測定⑥	膝関節・足関節・足部の測定法について		倉橋		
第23回	2	関節可動域測定⑥	膝関節・足関節・足部の測定法について		倉橋		
第24回	2	関節可動域測定⑦	頸部・胸腰部の測定法について		倉橋		
第25回	2	関節可動域測定⑦	頸部・胸腰部の測定法について		倉橋		
第26回	2	関節可動域測定⑧	肩甲帯の測定法について		倉橋		
第27回	2	関節可動域測定⑧	肩甲帯の測定法について		倉橋		
第28回	2	実技確認テスト②			倉橋		
第29回	2	実技確認テスト②			倉橋		
第30回	2	実技確認テスト②			倉橋		
第31回	2	実技確認テスト②			倉橋		
第32回	2	徒手筋力検査①	徒手筋力検査の定義について		倉橋		
第33回	2	徒手筋力検査①	徒手筋力検査の定義について		倉橋		
第34回	2	徒手筋力検査②	股関節周囲筋の筋力検査①		倉橋		
第35回	2	徒手筋力検査②	股関節周囲筋の筋力検査②		倉橋		
第36回	2	徒手筋力検査③	股関節周囲筋の筋力検査①		倉橋		
第37回	2	徒手筋力検査③	股関節周囲筋の筋力検査②		倉橋		
第38回	2	徒手筋力検査④	膝関節周囲筋の筋力検査①		倉橋		
第39回	2	徒手筋力検査④	膝関節周囲筋の筋力検査②		倉橋		
第40回	2	徒手筋力検査⑤	足関節・足部周囲筋の筋力検査①		倉橋		
第41回	2	徒手筋力検査⑤	足関節・足部周囲筋の筋力検査②		倉橋		
第42回	2	徒手筋力検査⑥	肩甲骨周囲筋の筋力検査①		倉橋		
第43回	2	徒手筋力検査⑥	肩甲骨周囲筋の筋力検査②		倉橋		
第44回	2	徒手筋力検査⑦	肩甲骨周囲筋の筋力検査③		倉橋		
第45回	2	徒手筋力検査⑦	肩甲骨周囲筋の筋力検査④		倉橋		

第46回	2	徒手筋力検査⑧	肩関節周囲筋の筋力検査①	倉橋
第47回	2	徒手筋力検査⑧	肩関節周囲筋の筋力検査②	倉橋
第48回	2	徒手筋力検査⑨	肩関節周囲筋の筋力検査③	倉橋
第49回	2	徒手筋力検査⑨	肩関節周囲筋の筋力検査④	倉橋
第50回	2	徒手筋力検査⑩	肘関節・前腕周囲筋の筋力検査①	倉橋
第51回	2	徒手筋力検査⑩	肘関節・前腕周囲筋の筋力検査②	倉橋
第52回	2	徒手筋力検査⑪	手関節周囲筋の筋力検査①	倉橋
第53回	2	徒手筋力検査⑪	手関節周囲筋の筋力検査②	倉橋
第54回	2	実技確認テスト③		倉橋
第55回	2	実技確認テスト③		倉橋
第56回	2	実技確認テスト③		倉橋
第57回	2	実技確認テスト③		倉橋
第58回	2	徒手筋力検査⑫	体幹筋の筋力検査①	倉橋
第59回	2	徒手筋力検査⑫	体幹筋の筋力検査②	倉橋
第60回	2	徒手筋力検査⑬	体幹筋の筋力検査③	倉橋
第61回	2	徒手筋力検査⑬	体幹筋の筋力検査④	倉橋
第62回	2	徒手筋力検査⑭	体幹筋の筋力検査⑤	倉橋
第63回	2	徒手筋力検査⑭	体幹筋の筋力検査⑥	倉橋
第64回	2	徒手筋力検査⑮	体幹筋の筋力検査⑦	倉橋
第65回	2	徒手筋力検査⑮	体幹筋の筋力検査⑧	倉橋
第66回	2	徒手筋力検査⑯	頸部筋の筋力検査①	倉橋
第67回	2	徒手筋力検査⑯	頸部筋の筋力検査②	倉橋
第68回	2	徒手筋力検査⑯	頸部筋の筋力検査③	倉橋
第69回	2	実技確認テスト④		倉橋
第70回	2	実技確認テスト④		倉橋
第71回	2	実技確認テスト④		倉橋
第72回	2	実技確認テスト④		倉橋
第73回	2	徒手筋力検査⑰	脳神経のMMT①	倉橋
第74回	2	徒手筋力検査⑰	脳神経のMMT②	倉橋
第75回	2	まとめ	学習のまとめ	倉橋
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
32		理学療法評価学Ⅱ	開講時期	2年通年	増田 岳彦		
			授業時間	150			
			☑実務経験のある教員による授業			単位数	5単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、各症例情報をもとに基礎的知識の確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく(画像含む)。					教科書(著者/書名/発行所) 理学療法評価学第6版 松澤正著		
教育目標該当項目: ①②③④					キーワード 基礎知識、理学療法評価、統合と解釈、リスク管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価の流れ①	一般的情報、医学的情報、社会的情報について		増田		
第2回	2	理学療法評価の流れ②	理学療法評価項目の立案について		増田		
第3回	2	理学療法評価の流れ③	理学療法評価方法の検討		増田		
第4回	2	理学療法評価の流れ④	理学療法評価結果の解釈		増田		
第5回	2	整形(膝関節疾患)症例①	膝関節に関する基礎知識の確認①		増田		
第6回	2	整形(膝関節疾患)症例②	膝関節に関する基礎知識の確認②		増田		
第7回	2	整形(膝関節疾患)症例③	膝関節疾患に関する病態の整理①		増田		
第8回	2	整形(膝関節疾患)症例④	膝関節疾患に関する病態の整理②		増田		
第9回	2	整形(膝関節疾患)症例⑤	膝関節疾患に対する理学療法評価①		増田		
第10回	2	整形(膝関節疾患)症例⑥	膝関節疾患に対する理学療法評価②		増田		
第11回	2	整形(膝関節疾患)症例⑦	膝関節疾患に対する理学療法評価③		増田		
第12回	2	整形(膝関節疾患)症例⑧	膝関節疾患に対する統合と解釈①		増田		
第13回	2	整形(膝関節疾患)症例⑨	膝関節疾患に対する統合と解釈②		増田		
第14回	2	整形(膝関節疾患)症例⑩	膝関節疾患に対する統合と解釈③		増田		
第15回	2	整形(膝関節疾患)症例⑪	膝関節疾患に対する統合と解釈④		増田		
第16回	2	整形(膝関節疾患)症例⑫	膝関節疾患に対する統合と解釈⑤		増田		
第17回	2	整形(膝関節疾患)症例⑬	膝関節疾患に対する統合と解釈⑥		増田		
第18回	2	整形(膝関節疾患)症例⑭	膝関節疾患に対する統合と解釈⑦		増田		
第19回	2	整形(膝関節疾患)症例⑮	膝関節疾患に対するまとめ		増田		
第20回	2	整形(股関節疾患)症例①	股関節に関する基礎知識の確認①		増田		
第21回	2	整形(股関節疾患)症例②	股関節に関する基礎知識の確認②		増田		
第22回	2	整形(股関節疾患)症例③	股関節疾患に関する病態の整理①		増田		
第23回	2	整形(股関節疾患)症例④	股関節疾患に関する病態の整理②		増田		
第24回	2	整形(股関節疾患)症例⑤	股関節疾患に対する理学療法評価①		増田		
第25回	2	整形(股関節疾患)症例⑥	股関節疾患に対する理学療法評価②		増田		
第26回	2	整形(股関節疾患)症例⑦	股関節疾患に対する理学療法評価③		増田		
第27回	2	整形(股関節疾患)症例⑧	股関節疾患に対する統合と解釈①		増田		
第28回	2	整形(股関節疾患)症例⑨	股関節疾患に対する統合と解釈②		増田		
第29回	2	整形(股関節疾患)症例⑩	股関節疾患に対する統合と解釈③		増田		
第30回	2	整形(股関節疾患)症例⑪	股関節疾患に対する統合と解釈④		増田		
第31回	2	整形(股関節疾患)症例⑫	股関節疾患に対する統合と解釈⑤		増田		
第32回	2	整形(股関節疾患)症例⑬	股関節疾患に対する統合と解釈⑥		増田		
第33回	2	整形(股関節疾患)症例⑭	股関節疾患に対する統合と解釈⑦		増田		
第34回	2	整形(股関節疾患)症例⑮	股関節疾患に対するまとめ		増田		
第35回	2	中枢(片麻痺)症例①	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認①		増田		
第36回	2	中枢(片麻痺)症例②	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認②		増田		
第37回	2	中枢(片麻痺)症例③	片麻痺疾患に関する病態の整理①		増田		
第38回	2	中枢(片麻痺)症例④	片麻痺疾患に関する病態の整理②		増田		
第39回	2	中枢(片麻痺)症例⑤	片麻痺疾患に対する理学療法評価①		増田		
第40回	2	中枢(片麻痺)症例⑥	片麻痺疾患に対する理学療法評価②		増田		
第41回	2	中枢(片麻痺)症例⑦	片麻痺疾患に対する理学療法評価③		増田		
第42回	2	中枢(片麻痺)症例⑧	片麻痺疾患に対する統合と解釈①		増田		
第43回	2	中枢(片麻痺)症例⑨	片麻痺疾患に対する統合と解釈②		増田		
第44回	2	中枢(片麻痺)症例⑩	片麻痺疾患に対する統合と解釈③		増田		
第45回	2	中枢(片麻痺)症例⑪	片麻痺疾患に対する統合と解釈④		増田		

第46回	2	中枢(片麻痺)症例⑫	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑤	増田
第47回	2	中枢(片麻痺)症例⑬	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑥	増田
第48回	2	中枢(片麻痺)症例⑭	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑦	増田
第49回	2	中枢(片麻痺)症例⑮	片麻痺疾患に対するまとめ	増田
第50回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第51回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第52回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第53回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第54回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第55回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第56回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第57回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第58回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第59回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第60回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第61回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第62回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第63回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第64回	2	リスク管理について	各疾患に対する症状別のリスク管理	増田
第65回	2	総括	まとめ	増田
第66回	2	総括	まとめ	増田
第67回	2	総括	まとめ	増田
第68回	2	総括	まとめ	増田
第69回	2	総括	まとめ	増田
第70回	2	総括	まとめ	増田
第71回	2	総括	まとめ	増田
第72回	2	総括	まとめ	増田
第73回	2	総括	まとめ	増田
第74回	2	総括	まとめ	増田
第75回	2	総括	まとめ	増田
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
33		整形障害理学療法Ⅰ	開講時期	2年後期	矢作 浩		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 機能障害に対する運動療法を学ぶ整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする(画像含む)。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所)		
					加藤浩編/Crosslink理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学/メジカルビュー社		
					キーワード		
					①各疾患の病態 ②各疾患の理学療法評価 ③各疾患の理学療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	疼痛の評価と治療	安静時痛・動作時痛の評価と治療		矢作		
第2回	2	疼痛の評価と治療	CRPSの評価と治療		矢作		
第3回	2	保存療法における理学療法①	変形性膝関節症の評価と治療		矢作		
第4回	2	保存療法における理学療法②	変形性股関節症の評価と治療		矢作		
第5回	2	保存療法における理学療法③	腰椎椎間板ヘルニアの評価と治療		矢作		
第6回	2	保存療法における理学療法④	腰部脊柱管狭窄症の評価と治療		矢作		
第7回	2	保存療法における理学療法⑤	腰痛症の評価と治療		矢作		
第8回	2	保存療法における理学療法⑥	腰椎圧迫骨折の評価と治療		矢作		
第9回	2	保存療法における理学療法⑦	頸椎症性神経根症の評価と治療		矢作		
第10回	2	保存療法における理学療法⑧	肩関節周囲炎の評価と治療		矢作		
第11回	2	手術療法における理学療法①	大腿骨頸部骨折の評価		矢作		
第12回	2	手術療法における理学療法②	大腿骨頸部骨折の治療		矢作		
第13回	2	手術療法における理学療法③	THA術後の評価と治療		矢作		
第14回	2	手術療法における理学療法④	TKA術後の評価		矢作		
第15回	2	手術療法における理学療法⑤	TKA術後の治療		矢作		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	矢作 浩
34		整形障害理学療法Ⅱ	開講時期	3年前期		
			授業時間	60		
☑実務経験のある教員による授業					単位数	2単位 演習
科目概要・目的 機能障害に対する運動療法を学ぶ整形障害理学療法Ⅰに引き続き、整形障害領域の理学療法における基礎的な評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、理学療法士として診療所1年、老人デイサービス4年、一般病院2年間の実務経験を活かした授業で、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする(画像含む)。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 加藤浩編/Crosslink理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学/メジカルビュー社	
					キーワード ①各疾患の病態 ②各疾患の理学療法評価 ③各疾患の理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	手術療法における理学療法①	ACL再建術後の評価			矢作
第2回	2	手術療法における理学療法②	ACL再建術後の評価			矢作
第3回	2	手術療法における理学療法③	ACL再建術後の評価			矢作
第4回	2	手術療法における理学療法④	ACL再建術後の評価			矢作
第5回	2	手術療法における理学療法⑤	ACL再建術後の評価			矢作
第6回	2	手術療法における理学療法⑥	ACL再建術後の評価			矢作
第7回	2	手術療法における理学療法⑦	ACL再建術後の治療			矢作
第8回	2	手術療法における理学療法⑧	ACL再建術後の治療			矢作
第9回	2	手術療法における理学療法⑨	ACL再建術後の治療			矢作
第10回	2	保存療法における理学療法①	半月板損傷の評価			矢作
第11回	2	保存療法における理学療法②	半月板損傷の評価			矢作
第12回	2	保存療法における理学療法③	半月板損傷の評価			矢作
第13回	2	手術療法における理学療法①	半月板損傷の治療			矢作
第14回	2	手術療法における理学療法②	半月板損傷の治療			矢作
第15回	2	手術療法における理学療法③	半月板損傷の治療			矢作
第16回	2	保存療法における理学療法①	アキレス腱損傷の評価			矢作
第17回	2	保存療法における理学療法②	アキレス腱損傷の評価			矢作
第18回	2	保存療法における理学療法③	アキレス腱損傷の評価			矢作
第19回	2	手術療法における理学療法①	アキレス腱損傷の治療			矢作
第20回	2	手術療法における理学療法②	アキレス腱損傷の治療			矢作
第21回	2	手術療法における理学療法③	アキレス腱損傷の治療			矢作
第22回	2	保存療法における理学療法①	腱板断裂の評価と治療			矢作
第23回	2	手術療法における理学療法①	腱板断裂の評価と治療			矢作
第24回	2	保存療法における理学療法①	橈骨遠位端骨折の評価と治療			矢作
第25回	2	保存療法における理学療法①	絞扼性神経障害の評価と治療			矢作
第26回	2	保存療法における理学療法①	手根管症候群の評価と治療			矢作
第27回	2	その他の理学療法①	RAの評価			矢作
第28回	2	その他の理学療法②	RAの評価			矢作
第29回	2	その他の理学療法③	RAの評価と治療			矢作
第30回	2	総括	振り返り			矢作
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	板子 伸子
35		神経障害理学療法 I	開講時期	2年後期	担当者	板子 伸子
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設2年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする(画像含む)。 教育目標該当項目: ①②③④					教科書(著者/書名/発行所) 鈴木俊明他/クロスリンク理学療法テキスト神経障害理学療法 I・II/メジカルビュー社	
					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	導入		板子	
第2回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈①		板子	
第4回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈②		板子	
第5回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈③		板子	
第6回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈④		板子	
第8回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈⑤		板子	
第9回	2	脳卒中の理学療法評価と解釈	神経学的理学療法評価と解釈⑥		板子	
第10回	2	中枢神経疾患にみられる症状	神経難病の特徴と理学療法評価		板子	
第11回	2	中枢神経疾患にみられる症状	神経難病の特徴と理学療法評価		板子	
第12回	2	姿勢・動作の特徴と評価	姿勢観察・動作観察・記録の方法①		板子	
第13回	2	姿勢・動作の特徴と評価	姿勢観察・動作観察・記録の方法②		板子	
第14回	2	姿勢・動作の特徴と評価	姿勢観察・動作観察・記録の方法③		板子	
第15回	2	総括	まとめ		板子	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	板子 伸子 栗原 慶太 渡辺 学	
36		神経障害理学療法Ⅱ	開講時期	3年前期	担当者	板子 伸子 栗原 慶太 渡辺 学	
			授業時間	60			
☑実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設2年間の実務経験を活かした授業で、神経障害理学療法Ⅰに引き続き解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする（画像含む）。 教育目標該当項目： ①②③④					教科書（著者/書名/発行所） 鈴木俊明他/クロスリンク理学療法テキスト神経障害理学療法Ⅰ・Ⅱ/メジカルビュー社		
					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	パーキンソン病	導入・画像の見かた		板子		
第2回	2	パーキンソン病	導入・画像の見かた		板子		
第3回	2	パーキンソン病	脳卒中急性期の理学療法①		板子		
第4回	2	筋萎縮性側索硬化症	脳卒中急性期の理学療法②		板子		
第5回	2	多発性硬化症	脳卒中回復期の理学療法①		板子		
第6回	2	脊髄小脳変性症	脳卒中回復期の理学療法②		板子		
第7回	2	脊髄小脳変性症	脳卒中回復期の理学療法③		板子		
第8回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	脳卒中回復期の理学療法④		板子		
第9回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	脳卒中維持期の理学療法①		板子		
第10回	2	片麻痺について①	脳卒中維持期の理学療法②		板子		
第11回	2	片麻痺について②	脳卒中維持期の理学療法③		板子		
第12回	2	片麻痺について③	脳卒中維持期の理学療法④		板子		
第13回	2	片麻痺について④	パーキンソン病の理学療法①		板子		
第14回	2	片麻痺について⑤	パーキンソン病の理学療法②		板子		
第15回	2	片麻痺について⑥	中枢神経疾患で適応になる装具や杖の使い方①		板子		
第16回	2	片麻痺患者の姿勢	中枢神経疾患で適応になる装具や杖の使い方②		板子		
第17回	2	片麻痺患者の動作①	移乗動作の介助・基本動作の介助①		板子		
第18回	2	片麻痺患者の動作②	移乗動作の介助・基本動作の介助②		板子		
第19回	2	片麻痺患者の歩行①	高次脳機能障害の理学療法①		板子		
第20回	2	片麻痺患者の歩行②	高次脳機能障害の理学療法②		板子		
第21回	2	片麻痺患者の治療①	高次脳機能障害の理学療法③		板子		
第22回	2	片麻痺患者の治療②	高次脳機能障害の理学療法④		板子		
第23回	2	片麻痺患者の治療③	神経難病・がんの理学療法と理学療法手技①		板子		
第24回	2	片麻痺患者の治療④	神経難病・がんの理学療法と理学療法手技②		板子		
第25回	2	片麻痺患者の治療⑤	神経難病・がんの理学療法と理学療法手技③		板子		
第26回	2	片麻痺患者の治療⑥	神経難病・がんの理学療法と理学療法手技④		板子		
第27回	2	片麻痺患者の治療⑦	歩行とADLの評価①		板子		
第28回	2	片麻痺患者の治療⑧	歩行とADLの評価②		板子		
第29回	2	片麻痺患者の治療⑨	リスク管理と理学療法		板子		
第30回	2	総括	まとめ		板子		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	市川 真莉那
37		内部障害理学療法 I	開講時期	2年通年		
			授業時間	60		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位
科目概要・目的					演習	
理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かした授業で循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる(画像含む)。					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目: ①②③④					徳野慎一/スッキリわかるモニター心電図/照林社 吉尾雅春/内部障害理学療法学/標準理学療法学 高橋仁美/動画で分かる呼吸リハビリテーション/中山書店	
					キーワード	
					心電図、呼吸器疾患、心不全、虚血性心疾患	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	循環器疾患に対する理学療法	刺激伝導系		市川	
第2回	2	循環器疾患に対する理学療法	洞調律の異常、狭心症、心筋梗塞の心電図		市川	
第3回	2	循環器疾患に対する理学療法	刺激伝導系の異常心電図		市川	
第4回	2	循環器疾患に対する理学療法	期外収縮、細動、粗動、頻拍の心電図		市川	
第5回	2	循環器疾患に対する理学療法	心拍数		市川	
第6回	2	総括	まとめ		市川	
第7回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状		市川	
第8回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状		市川	
第9回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	胸部レントゲン検査・CT・MRI検査		市川	
第10回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	胸部レントゲン検査・CT・MRI検査		市川	
第11回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸不全について		市川	
第12回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸不全について		市川	
第13回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸リハビリテーションにおける評価		市川	
第14回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸リハビリテーションにおける評価		市川	
第15回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	肺炎の理学療法		市川	
第16回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	肺炎の理学療法		市川	
第17回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患に対する薬物療法、在宅酸素療法		市川	
第18回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	人工呼吸器について		市川	
第19回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	術前術後の呼吸理学療法		市川	
第20回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	リスク管理について		市川	
第21回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の評価		市川	
第22回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の評価		市川	
第23回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の評価		市川	
第24回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の評価		市川	
第25回	2	循環器疾患に対する理学療法	心臓カテーテル・胸部レントゲン・心エコー検査		市川	
第26回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する薬物療法		市川	
第27回	2	循環器疾患に対する理学療法	心肺運動負荷試験		市川	
第28回	2	循環器疾患に対する理学療法	心肺運動負荷試験		市川	
第29回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法、リスク管理について		市川	
第30回	2	総括	まとめ		市川	
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
38		内部障害理学療法Ⅱ	開講時期	3年前期	市川 真莉那		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間、診療所4年間の実務経験を活かした授業で内部障害理学療法Ⅰに引き続き、循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるように学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる(画像含む。排痰・喀痰吸引法含む)。					教科書(著者/書名/発行所) 吉尾雅春/内部障害理学療法学/標準理学療法学 西崎祐史/とんでもなく役立つ検査値の読み方/照林社		
教育目標該当項目: ①②③④					キーワード 糖尿病、腎障害、末梢動脈疾患、大動脈疾患、肺炎、吸引、がん		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	代謝疾患に対する理学療法	メタボリックシンドローム		市川		
第2回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の症状、検査所見		市川		
第3回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する薬物療法、運動処方		市川		
第4回	2	代謝疾患に対する理学療法	腎障害の症状、薬物療法、生活習慣		市川		
第5回	2	代謝疾患に対する理学療法	腎障害の症状、薬物療法、生活習慣		市川		
第6回	2	代謝疾患に対する理学療法	末梢動脈疾患、大動脈疾患の運動療法		市川		
第7回	2	代謝疾患に対する理学療法	末梢動脈疾患、大動脈疾患の運動療法		市川		
第8回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	肺炎の理学療法		市川		
第9回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法		市川		
第10回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	喀痰吸引法		市川		
第11回	2	内部障害に対する理学療法	検査値の読み方		市川		
第12回	2	がんに対する理学療法	各病期に対する介入方法		市川		
第13回	2	がんに対する理学療法	リンパ浮腫		市川		
第14回	2	がんに対する理学療法	リスク管理について		市川		
第15回	2	総括	まとめ		市川		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	大和田 和彦	
39		物理療法学	開講時期	2年前期	担当者	大和田 和彦	
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	3 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。 ・各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) 庄本康治編集 PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 羊土社		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 電気刺激療法・電磁波療法・光線療法・超音波療法・水治療法・牽引療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	総論	EPAの定義。鎮痛のメカニズム		大和田		
第2回	2	温熱療法総論	熱の移動形態。比熱基本的作用について学ぶ		大和田		
第3回	2	ホットパック・パラフィン	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第4回	2	極超短波・超短波	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第5回	2	超音波	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第6回	2	寒冷療法	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第7回	2	水治療法	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第8回	2	光線療法①	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第9回	2	光線療法②	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第10回	2	電気刺激療法①	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第11回	2	電気狙撃療法②	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第12回	2	牽引療法・振動刺激療法	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第13回	2	衝撃波療法	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第14回	2	バイオフィードバック療法	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第15回	2	ロボットリハビリテーション	実施手順と作用・効果 適応 禁忌		大和田		
第16回	2	実技			大和田		
第17回	2	実技			大和田		
第18回	2	実技			大和田		
第19回	2	実技			大和田		
第20回	2	実技			大和田		
第21回	2	実技			大和田		
第22回	2	実技			大和田		
第23回	2	まとめ			大和田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	時田 幸之輔
40		義肢学	開講時期	3年前期	担当者	時田 幸之輔
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間の実務経験を活かした授業。義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。義肢について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。授業では、様々な義肢の適応と特性、ソケットの適合と義肢のアライメントについて理解することを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所) 「切断と義肢」医歯薬出版	
教育目標該当項目: ②③④					キーワード 切断、大腿義足、股義足、下腿義足 ソケット、適合、アライメント	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	切断	切断原因・切断部位		時田	
第2回	2	義肢に関する基本的事項	義肢に関する基本的事項・義足の部品		時田	
第3回	2	大腿義足ソケット	大腿義足のソケット		時田	
第4回	2	大腿義足アライメント	大腿義足のアライメント-1:ベンチアライメント、静的アライメント		時田	
第5回	2	大腿義足アライメント	大腿義足のアライメント-2:動的アライメント		時田	
第6回	2	股義足・下腿義足	股義足・下腿義足		時田	
第7回	2	実習	義肢学実習Ⅰ-1		時田	
第8回	2	実習	義肢学実習Ⅰ-2		時田	
第9回	2	実習	義肢学実習Ⅱ-1		時田	
第10回	2	実習	義肢学実習Ⅱ-2		時田	
第11回	2	実習	義肢学実習Ⅲ-1		時田	
第12回	2	実習	義肢学実習Ⅲ-2		時田	
第13回	2	発表	実習報告会1		時田	
第14回	2	発表	実習報告会2		時田	
第15回	2	発表	実習報告会3		時田	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
41		装具学	開講時期	2年後期	増田 岳彦		
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的 装具が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。装具について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。理学療法士として一般病院18年間の実務経験を活かした授業で、様々な装具の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所) 「装具学」医歯薬出版 「切断と義肢」医歯薬出版		
教育目標該当項目: ②③④					キーワード 上肢、体幹、下肢装具		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	装具に関する基本的事項	装具の目的・役割について		増田		
第2回	2	装具に関する基本的事項	装具の目的・役割について		増田		
第3回	2	上肢装具	上肢装具の種類と役割について		増田		
第4回	2	体幹装具	体幹装具の種類と役割について		増田		
第5回	2	下肢装具	下肢装具の種類と役割について		増田		
第6回	2	末梢神経損傷	上肢装具(腕神経叢損傷、橈骨・正中・尺骨神経麻痺)		増田		
第7回	2	脊髄性疾患①	脊髄損傷による上肢装具		増田		
第8回	2	脊髄性疾患②	脊髄損傷による下肢装具		増田		
第9回	2	骨関節疾患①	骨折に対する下肢装具		増田		
第10回	2	骨関節疾患②	骨折に対する下肢装具・体幹装具		増田		
第11回	2	中枢神経疾患①	片麻痺に対する下肢装具①		増田		
第12回	2	中枢神経疾患②	片麻痺に対する下肢装具②		増田		
第13回	2	その他①	車椅子・座位保持装置		増田		
第14回	2	その他②	移乗機器・歩行補助具・適合評価		増田		
第15回	2	総括	まとめ		増田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
42		理学療法技術論	開講時期	4年通年	大和田 和彦		
			授業時間	420			
			☑実務経験のある教員による授業			単位数	14 単位
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。					事前選定したものを購入し使用する予定		
教育目標該当項目: ②③					キーワード		
					骨・関節、筋、中枢神経、末梢神経、循環器、呼吸器、代謝、泌尿器、運動学、整形障害、中枢神経障害、内部障害、評価、小児、ADL、義肢、装具		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第2回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第3回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第4回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第5回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第6回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第7回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第8回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第9回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第10回	2	基礎分野	骨・関節領域		専任教員		
第11回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第12回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第13回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第14回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第15回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第16回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第17回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第18回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第19回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第20回	2	基礎分野	筋領域		専任教員		
第21回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第22回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第23回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第24回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第25回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第26回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第27回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第28回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第29回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第30回	2	基礎分野	中枢神経領域		専任教員		
第31回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第32回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第33回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第34回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第35回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第36回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第37回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第38回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第39回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第40回	2	基礎分野	末梢神経領域		専任教員		
第41回	2	基礎分野	循環器領域		専任教員		
第42回	2	基礎分野	循環器領域		専任教員		
第43回	2	基礎分野	循環器領域		専任教員		
第44回	2	基礎分野	循環器領域		専任教員		
第45回	2	基礎分野	循環器領域		専任教員		

第164回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第165回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第166回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第167回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第168回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第169回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第170回	2	専門基礎領域	内部障害領域	専任教員
第171回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第172回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第173回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第174回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第175回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第176回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第177回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第178回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第179回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第180回	2	専門基礎領域	精神領域	専任教員
第181回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第182回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第183回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第184回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第185回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第186回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第187回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第188回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第189回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第190回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第191回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第192回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第193回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第194回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第195回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第196回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第197回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第198回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第199回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第200回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第201回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第202回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第203回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第204回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第205回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第206回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第207回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第208回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第209回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第210回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	大和田 和彦	
43		理学療法治療学	開講時期	4年前期	担当者	大和田 和彦	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、スポーツ疾患などを中心とした整形外科領域の理学療法治療と、高次脳機能障害を中心とした中枢神経系理学療法治療について学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 配布資料		
教育目標該当項目: ②③④⑤					キーワード スポーツ理学療法 姿勢調節、高次脳機能障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	スポーツ疾患に対する理学療法①	スポーツ疾患の特徴		外部講師		
第2回	2	スポーツ疾患に対する理学療法②	PRICEの実際		外部講師		
第3回	2	スポーツ疾患に対する理学療法③	スポーツ障害(膝)に対する治療		外部講師		
第4回	2	スポーツ疾患に対する理学療法④	スポーツ障害(股)に対する治療		外部講師		
第5回	2	スポーツ疾患に対する理学療法⑤	スポーツ障害(足)に対する治療		外部講師		
第6回	2	スポーツ疾患に対する理学療法⑥	スポーツ障害(肩)に対する治療		外部講師		
第7回	2	スポーツ疾患に対する理学療法⑦	スポーツ障害(脊椎)に対する治療		外部講師		
第8回	2	スポーツ疾患に対する理学療法⑧	テーピング		外部講師		
第9回	2	スポーツ疾患に対する理学療法⑨	テーピング		外部講師		
第10回	2	高次脳機能障害に対する理学療法①	USN		外部講師		
第11回	2	高次脳機能障害に対する理学療法②	USN		外部講師		
第12回	2	高次脳機能障害に対する理学療法③	USN		外部講師		
第13回	2	高次脳機能障害に対する理学療法④	失調		外部講師		
第14回	2	高次脳機能障害に対する理学療法⑤	失調		外部講師		
第15回	2	総括	まとめ		大和田		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
44		卒業論文	開講時期	4年前期	担当者	板子 伸子	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院3年間、大学病院7年間、介護老人保健施設8年間、通所施設2年間の実務経験を活かした授業で、理学療法領域における研究法を学び、論文を作成する。 教育目標該当項目： ②③⑤					教科書(著者/書名/発行所)		
					配布資料		
					キーワード		
					研究		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	研究法	研究に必要な医療統計学		板子		
第2回	2	研究法	研究に必要な医療統計学		板子		
第3回	2	研究法	研究に必要な医療統計学		板子		
第4回	2	研究法	研究に必要な医療統計学		板子		
第5回	2	研究法	研究に必要な医療統計学		板子		
第6回	2	論文テーマの選定	テーマについて個別指導を行う		板子		
第7回	2	論文テーマの選定	テーマについて個別指導を行う		板子		
第8回	2	論文テーマの選定	テーマについて個別指導を行う		板子		
第9回	2	論文テーマの選定	テーマについて個別指導を行う		板子		
第10回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第11回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第12回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第13回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第14回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第15回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第16回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第17回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第18回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第19回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第20回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第21回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第22回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第23回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第24回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第25回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第26回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第27回	2	論文作成	論文作成指導		板子		
第28回	2	発表	発表に対する指導		板子		
第29回	2	発表	発表に対する指導		板子		
第30回	2	総括	総括		板子		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
45		日常生活活動学Ⅰ	開講時期	2年後期	倉橋 智		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 日常生活活動(ADL)は、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念である。 理学療法士として一般病院6年間の実務経験を活かした授業で、その概念とQOLについて理解し、ADL指導について理解を深める。 教育目標該当項目: ②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 臼田 滋/ 編集 Cross link 理学療法学会テキスト 日常生活活動学 / メジカルビュー社 キーワード ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	ADLの概念・範囲	ADL・APDL・IADL・QOLなどの概念を説明できる		倉橋		
第2回	2	ADLの概念・範囲	ADLに影響を与える要因を分析できる		倉橋		
第3回	2	日常生活の評価	ADL評価の留意点について説明できる		倉橋		
第4回	2	日常生活の評価	代表的ADL評価を説明できる		倉橋		
第5回	2	日常生活の評価	ADL評価の実際を行うことができる		倉橋		
第6回	2	基本動作	基本動作について説明することができる		倉橋		
第7回	2	基本動作	正常基本動作分析について説明することができる		倉橋		
第8回	2	基本動作	正常基本動作分析について動作分析することができる		倉橋		
第9回	2	複合動作指導	複合動作指導のポイントを説明できる		倉橋		
第10回	2	複合動作指導	移動補助具を使用したの応用動作について説明できる		倉橋		
第11回	2	複合動作指導	身のまわり動作のポイントを把握し説明できる		倉橋		
第12回	2	リハビリテーション支援機器	福祉器具・用具について説明できる		倉橋		
第13回	2	リハビリテーション支援機器	杖・歩行器について基本的構造・活用・指導ができる		倉橋		
第14回	2	リハビリテーション支援機器	車いすについて基本的構造・活用・指導ができる		倉橋		
第15回	2	総括	まとめ		倉橋		
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門		
46		日常生活活動学Ⅱ	開講時期	3年前期		本持 英児
			授業時間	45		
☑実務経験のある教員による授業					単位数	3単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設4年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの重要な概念である在宅生活の環境の中で、その概念とQOLについて理解し、日常生活活動学Ⅰで学習した内容を基に各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。 教育目標該当項目: ②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 臼田 滋/ 編集 理学療法学テキスト 日常生活活動学 / MEDICAL VIEW	
					キーワード ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	ADLの評価①	基本動作介助についておさらい		本持	
第2回	2				本持	
第3回	2	ADLの評価②	FIMの項目と評価内容について理解する		本持	
第4回	2				本持	
第5回	2	各疾患のADL指導①	片麻痺のADL指導について理解する		本持	
第6回	2				本持	
第7回	2	各疾患のADL指導②	脊髄損傷のADL指導について理解する		本持	
第8回	2				本持	
第9回	2	各疾患のADL指導③	脳性麻痺のADL指導について理解する		本持	
第10回	2				本持	
第11回	2	各疾患のADL指導④	関節リウマチのADL指導について理解する		本持	
第12回	2				本持	
第13回	2	各疾患のADL指導⑤	人工股関節術後のADL指導について理解する		本持	
第14回	2				本持	
第15回	2	各疾患のADL指導⑥	下肢切断のADL指導について理解する		本持	
第16回	2				本持	
第17回	2	各疾患のADL指導⑦	呼吸器・循環器疾患のADL指導について理解する		本持	
第18回	2				本持	
第19回	2	各疾患のADL指導⑧	神経筋疾患・難病のADL指導について理解する		本持	
第20回	2				本持	
第21回	2	各疾患のADL指導⑨	視覚障害のADL指導について理解する		本持	
第22回	2				本持	
第23回	2	国家試験対策	国家試験過去問題演習と解説		本持	
評価方法		「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	
47		地域理学療法学Ⅰ	開講時期	3年後期	本持 英児	
			授業時間	15		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院12年間、介護老人保健施設を含め高齢者総合福祉施設4年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目: ②③④⑤					キーワード 地域リハビリテーションの理念、介護保険法、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する			本持
第2回	2	地域リハビリテーション関連法規	介護保険法について理解する			本持
第3回	2	地域リハビリテーション関連法規	障害者総合支援法について理解する			本持
第4回	2	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムの考え方、実際について理解する			本持
第5回	2	地域における社会資源	社会福祉協議会など、地域における社会資源について理解する			本持
第6回	2	地域理学療法	地域における理学療法の必要性を理解し、介入根拠を説明できる			本持
第7回	2	地域理学療法	地域における理学療法の評価・治療について説明できる			本持
第8回	2	地域における連携	地域リハビリテーションに関連する専門職種を理解し、連携方法を理解する			本持
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

令和4年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	
48		地域理学療法学Ⅱ	開講時期	4年前期	大和田 和彦 他	
			授業時間	15		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として総合病院4年間、一般病院9年間、介護老人保健施設13年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学する。また、グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。 教育目標該当項目： ②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所)	年度により領域の変更があります
					キーワード	地域
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		大和田	
第2回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		大和田	
第3回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		大和田	
第4回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		大和田	
第5回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		大和田	
第6回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		大和田	
第7回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		大和田	
第8回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		大和田	
評価方法	「講義・演習・実技単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
49	○	臨床実習 I	開講時期	2年後期	増田 岳彦		
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	実習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習の包括的な指導および学習・評価を行う。					キーワード		
教育目標該当項目: ①②③④⑤					学外実習		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
		学外にて見学実習を体験する。実習後は事後課題として学んだ知識などの整理を行う。	リハビリテーションセンターなど学外で見学実習を実施し、終了後学内で学んだ知識の整理を行う。			専任教員	
評価方法	「実習単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する * チェックリストの判定は、体験が可能であった項目に限る。						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
50	○	臨床実習Ⅱ	開講時期	2年通年	増田 岳彦		
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	実習
科目概要・目的 学外実習および理学療法士が担当する検査・測定の実技体験学習を実施する。一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習の包括的な指導および学習・評価を行う。 教育目標該当項目： ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 学外実習		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
		学外にて検査測定を実習として体験する。 実習前後で事前学習と事後学習を行い、学内にて評価する。	臨床現場の各施設にて検査測定実習を行う。			専任教員	
評価方法	「実習単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する * チェックリストの判定は、体験が可能であった項目に限る。						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	増田 岳彦
51	○	臨床実習Ⅲ	開講時期	3年後期		
			授業時間	315	単位数	7単位
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		実習	
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)	
<p>一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、実習指導者のもとで検査・測定技術を確実にするとともに、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにすることを目的とする。また、理学療法士として必要な情報収集・記録・報告ができ、さらに医療専門職としての責任ある態度・行動を獲得することを目的とする。</p>					キーワード	
<p>教育目標該当項目： ①②③④⑤</p>					検査、測定・記録、報告	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
		<p>① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。 ② 関連部門から必要な情報を収集できる。 ③ 必要な評価項目を選択できる。 ④ 評価に伴うリスク管理が行える。 ⑤ 評価を正確に実施できる。 ⑥ 評価結果を記録用紙等に記載できる。 ⑦ 評価から得られた結果を考察できる。 ⑧ 評価結果から問題点を抽出できる。 ⑨ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。 ※評価には姿勢・動作観察を含む。 * 実習前後で事前学習と事後学習を行い、学内にて評価する。</p>	臨床現場の各施設にて評価実習を行う。			専任教員
評価方法	<p>「実習単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する * チェックリストの判定は、体験が可能であった項目に限る。</p>					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
52	○	臨床実習Ⅳ	開講時期	3年後期	増田 岳彦		
			授業時間	315			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	7 単位	実習
科目概要・目的 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅰで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れができることを目的とする。また、臨床実習Ⅰで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 医学的情報の理解・問題点の抽出・全体像の把握		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
		① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。 ② 関連部門から必要な情報を収集できる。 ③ 必要な評価項目を選択できる。 ④ 評価・治療に伴うリスク管理が行える。 ⑤ 評価・治療を正確に実施できる。 ⑥ 評価結果・治療内容を記録できる。 ⑦ 評価から得られた結果を考察できる。 ⑧ 評価結果から問題点を抽出できる。 ⑨ 治療目標を設定できる。 ⑩ 治療計画の立案ができる。 ⑪ 症例に対して治療目的と方法を説明できる。 ⑫ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。 * 実習前後で事前学習と事後学習を行い、学内にて評価する。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。			専任教員	
評価方法	「実習単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する * チェックリストの判定は、体験が可能であった項目に限る。						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
53	○	臨床実習Ⅴ	開講時期	4年前期	増田 岳彦		
			授業時間	315			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	7 単位	実習
科目概要・目的 一般病院18年間の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅱで実習した評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れを、内容を深めて実施することを目的とする。また、臨床実習Ⅱで明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、これまで学んだ知識・技術を応用することを目的とする。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 目標の設定・治療プログラム立案・他部門との連携		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
		① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。 ② 関連部門から必要な情報を収集できる。 ③ 必要な評価項目を選択できる。 ④ 評価・治療に伴うリスク管理が行える。 ⑤ 評価・治療を正確に実施できる。 ⑥ 評価結果・治療内容を記録できる。 ⑦ 評価から得られた結果を考察できる。 ⑧ 評価結果から問題点を抽出できる。 ⑨ 治療目標を設定できる。 ⑩ 治療計画の立案ができる。 ⑪ 症例に対して治療目的と方法を説明できる。 ⑫ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。 * 実習前後で事前学習と事後学習を行い、学内にて評価する。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。			専任教員	
評価方法	「実習単位認定ルーブリック(別紙)」にて以下の①②に該当しない場合を合格とする ①コア項目に1つ以上該当する ②コア項目以外のD項目が、3つ以上該当する * チェックリストの判定は、体験が可能であった項目に限る。						